

平成25年第3回野洲市議会定例会会議録

招集年月日 平成25年9月3日

招集場所 野洲市役所議場

|      |            |            |
|------|------------|------------|
| 応招議員 | 1 番 矢野 隆行  | 2 番 梶山 幾世  |
|      | 3 番 井狩 辰也  | 4 番 市木 一郎  |
|      | 5 番 高橋 繁夫  | 6 番 奥村 治男  |
|      | 7 番 中島 一雄  | 8 番 丸山 敬二  |
|      | 9 番 西本 俊吉  | 10 番 坂口 哲哉 |
|      | 11 番 立入三千男 | 12 番 太田 健一 |
|      | 13 番 野並 享子 | 14 番 小菅 六雄 |
|      | 16 番 三和 郁子 | 17 番 鈴木 市朗 |
|      | 18 番 内田 聡史 | 19 番 田中 良隆 |
|      | 20 番 河野 司  |            |

不応招議員 なし

出席議員 応招議員に同じ

欠席議員 15 番 田中 孝嗣

地方自治法第121条の規定により説明のため出席を求めた者の職氏名

|                        |       |         |       |
|------------------------|-------|---------|-------|
| 市 長                    | 山仲 善彰 | 教 育 長   | 川端 敏男 |
| 政策調整部長                 | 富田 久和 | 総 務 部 長 | 新庄 敏雅 |
| 市 民 部 長                | 佐敷 政紀 | 健康福祉部長  | 井狩 重則 |
| 政 策 監<br>(高齢者・子育て支援担当) | 川端 弘一 | 都市建設部長  | 山本 利夫 |
| 環境経済部長                 | 竹内 睦夫 | 教 育 部 長 | 中島 宗七 |
| 政 策 監<br>(文化・スポーツ振興担当) | 田中 善広 | 政策調整部次長 | 玉田 善一 |
| 総 務 部 次 長              | 立入 孝次 | 広報秘書課長  | 竹中 宏  |
| 総務課長補佐                 | 武内 了恵 |         |       |

出席した事務局職員の氏名

|         |        |           |        |
|---------|--------|-----------|--------|
| 事 務 局 長 | 橋 俊明   | 事 務 局 次 長 | 白井 芳治  |
| 課 長 補 佐 | 遠藤 美穂子 | 主 査       | 佐々木美砂子 |

## 議事日程

第 1 諸般の報告

第 2 会議録署名議員の指名

第 3 議第 6 8 号から議第 8 7 号まで

(平成 2 5 年度野洲市一般会計補正予算 (第 3 号) 他 1 9 件)

質疑

第 4 議第 6 8 号から議第 7 3 号まで及び議第 8 5 号から議第 8 7 号まで

(平成 2 5 年度野洲市一般会計補正予算 (第 3 号) 他 8 件)

常任委員会付託

第 5 議第 7 4 号から議第 8 4 号まで

(平成 2 4 年度野洲市一般会計歳入歳出決算の認定について

他 1 0 件)

決算特別委員会付託

第 6 一般質問

開議 午前 9 時 0 0 分

## 議事の経過

(再開)

○議長 (三和郁子君) (午前 9 時 0 0 分) 皆様、おはようございます。

ただいまより平成 2 5 年第 3 回野洲市議会定例会を再開いたします。

ただいまの出席議員は 1 9 名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

(日程第 1)

○議長 (三和郁子君) 日程第 1、諸般の報告を行います。

出席議員は、1 9 名であります。欠席議員は、1 5 番、田中孝嗣議員であります。

次に、本日の議事日程は既に配付いたしました議事日程のとおりであります。

次に、本日、説明員として出席通知のあった者の職氏名は、お手元に配付しておりますので、ご了承願います。

(日程第 2)

○議長（三和郁子君） 日程第２、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第１２７条の規定により第１４番、小菅六雄議員、第１７番、鈴木市朗議員を指名いたします。

（日程第３）

○議長（三和郁子君） 日程第３、議第６８号から議第８７号まで、平成２５年度野洲市一般会計補正予算（第３号）他１９件を一括議題といたします。

質疑通告書が提出されておりますので、発言を許します。

第１１番、立入三千男議員。

○１１番（立入三千男君） ただいま議題になっております議第６８号平成２５年度野洲市一般会計補正予算（第３号）の議案の質疑をいたしたいと思います。

それでは、今回提案されている補正予算案、款２総務費、項１総務管理費、目１０企画費、事業名企画調査推進費中、新病院整備に関する新病院整備基本構想検討委員会委員謝礼４２万５，０００円。新病院整備基本構想検討委員会委員費用弁償２１万２，０００円。新病院整備基本構想策定支援業務委託料４２０万円。以上、３件、合計４８３万７，０００円の計上について質問をいたしたいと思います。

まず１点目に、新病院整備基本構想についてですが、昨年示されました野洲市中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（素案）には、基本構想について病院の理念、役割、機能等を記載すると書かれておりますが、これらについては、これまでの検討委員会の提言や都市基盤整備特別委員会の議会への説明の中で、一定の整理ができていると思えるところでございます。

そこで、基本構想策定支援業務委託については、どのような内容の業務を委託されようとするのかをお伺いいたしたいと思います。また、外部委託の必要性についても、あわせてお伺いをしたいと思います。

次に、２点目に野洲市中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（素案）のスケジュール案には、基本方針案の市民説明会の開催やパブリックコメントの実施が予定されており、その後に基本構想の策定となっております。今回の補正予算の提案にあたっては、この整合についてのご見解をお聞きいたしたいと思います。

そして最後に、この調査を通じて本市のまちづくり計画と整合を図りながら、具体的な検討を進めるとの提案説明でございましたが、第１次野洲市総合計画改訂版との整合についてお尋ねをいたしたいと思います。第１次野洲市総合計画改訂版の第６章まちづくりの

基本施策、基本目標２、人とひとが支え合う安心なまち。施策１、健康づくりの推進の基本事業体系の中で、１つ目に、健康の保持増進のための体制強化の地域医療の充実促進がうたわれているところでございます。また、想定される主な取り組みの中では、医療に関するものとして、がんなどの早期発見のため、医療、保健、福祉の各機関における連携強化や検診、健康相談等の充実、そして、かかりつけ医制度の復旧や地域における小児科や産婦人科などの機能とサービスの確保。ちなみに、滋賀県のエリアで医療機関情報誌、ご近所ドクターBOOKの２０１３年版によりますと、本市には５２の診療所がございます。次に、地域医療のあり方について、市民や関係機関、団体等が情報共有できる場の確保の３点が想定をされています。まちづくりの根幹である第１次野洲市総合計画改訂版に、新病院整備という本市にとって大変大きな課題が想定をされておりますが、この点についてどのようにお考えでしょうか、ご見解をお伺いするところでございます。

以上です。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩します。

（午前９時０７分 休憩）

（午前９時０８分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

立入議員。

○１１番（立入三千男君） ただいまの質問の中で、最後のところで、大変大きな課題が想定されておりますがと言いましたが、おりませんということで訂正をさせていただきます。

以上です。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 議員の皆さん、おはようございます。

立入議員の議第６８号平成２５年度野洲市一般会計補正予算（第３号）のうちの新病院構想検討等に係る予算についてのご質問にお答えをいたします。

まず１点目の基本構想策定支援業務の内容についてであります。地域医療における中核的医療機関のあり方検討委員会、新病院整備可能性検討委員会の２つの提言、そして、市の考え方を示した野洲市中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（案）に基づき、立地、機能、財源、調達、運営想定などの概要は既にお示しをしております。

基本的には、これらを前提にしつつ、新病院整備を実現するためには、立地は示してい

ますが、具体的に野洲駅南口市有地のどこに立地するのが一番いいのかという検討。次に、運営形態については基本的に直営を前提としております。これまでも指定管理、あるいは独立行政法人、この選択肢の中で直営でいこうということにしていますけれども、実際はどういった体制、どういう部門が要るとか、それも絶対検討しないと取りかかれませんか。そして、3つ目に、新病院開設の要件として、許可病床、これは野洲病院が持っている、現有病床としていますが、もう一段の具体的な検討が必要ですし、医療施設や医療スタッフの確保についての検討も要ります。そして、具体的にスケジュールの検討を行う必要がありますので、こういった支援業務を想定しております。

また、委託の必要性につきましても、現在、野洲市は市民病院を持っておりません。ノウハウがありません。ですから、外部のノウハウ、知見に頼るということでありまして、万が一、持っていたとしても、これはやっています。甲賀も高島もやっています。野洲市の場合も、クリーンセンターを持っていますが、全て同じように基想の検討、そしてさまざまな設計、全部外部委託でやっています。

ちょっとお聞きいただいている意味が、私はわからないんですけども、先ほどのご質問で、既に整理をされているとおっしゃいました。じゃあ、整理されていたら、具体的にもう病院の建設にかかれるのかと思っておられる節がありまして、冒頭からちょっとこれは反問ができないので、一括でするのでお答えいたしますけれども、立入議員は、これも既に特別委員会でお示ししていますように、平成のはじめから野洲病院の理事をしておられます。一旦、県議会議員に出られたときに、辞めておられますけれども、またすぐに復活されておられます。その後も、これも既に示していますけれども、基本的に4名の理事であったにもかかわらず、河野議員が出られたときにまだやっておられたので、そのときだけ5名です。これまでの理事会の、全部残っていないみたいなんですけど、ちょっと見せていただきましたら、結構びっくりする検討をしておられまして、平成13年11月、公設民営病院推進委員会という検討をしておられるみたいなんですけど、そこでも結構、気楽なことを言っておられまして、メンバーがロータリーかライオンズなのか、ロータリー、ライオンズの2つの組織団体の1名の選出は難しいのではないかと。いったらそういうことで、何か本来、公設民営という大きな問題の検討もされているわけですし、それだけの経験をお持ちの議員が、これまでの特別委員会、あるいは方針で示した整理だけで、事が運ぶというご議論がちょっとわかりかねるんですけども、とりあえず今のようにお答えをいたしました。

次に、2問目の野洲市中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（素案）の中で、市民説明会やパブリックコメントを予定しておりましたけども、これは凍結以降、半年以上さまざまな集会、そして、市民アンケートをもっております。これは、パブコメ以上のことだと思っております。それと、市の広報にも、その都度、情報を的確にお知らせをして、市長への手紙等でもご意見をいただいております。これ以上に、まだパブコメをという、そこも私はよく理解しかねますけれども、当然その間に行ったことは折り込み済みで、次のことを進めるということでもあります。

それと、通告では凍結の意味がわからないとおっしゃっていましたが、これは昨年12月にはっきり申し上げましたように、本来ですと昨年12月に合意を完全にいただいて、私として自信を持って進められるのであれば、今年度の当初予算、2月、3月議会に今回提案させていただいています予算を提案させていただこうと。ただ、それをとめるということは凍結の意味でした。そこは、メッセージを送っておかないと、野洲市がぐらついている。あるいは、野洲病院への評価にも関わるということでとめたわけですし、自ずから今回、予算を提案させていただいたということは、もう申し上げておりますし、何かご理解いただけなかったみたいで、ご質問に入っておりましたけど、途中で消えて、今日ご発言なさらなかったのも、おや、どうなったかなと思ったんですけども、そういう流れできております。パブコメについても同じことでして、その間に予定していたけども、それ以上のことをやったので、今回パブコメなしで予算を提案させていただいたということでもあります。ただ、今回もまだ構想でありますので、さまざまなご意見を伺う場が出てくると思っております。

次に、3点目の市総合計画と新病院整備の整合性についてであります。細々お答えをしてもいいんですけども、要するに改定をしました野洲市の総合計画の中に、市が病院をつくるという大きなことが書いていないのではないかというご指摘かなと思うんですけども、これは2点の点で致し方がないといいますか、深刻な問題だと思うんです。どういう深刻かと言いますと、これは並行作業で進めていました。総合計画のときには、決まっています。

もう1つは、今、立入議員が総合計画、これを見ていただきましたように、この冊子でいきますと、51ページ。今、お読みになったと思いますけども、施策1の一番重要なところの健康づくりの推進というところに、基本事業体系として健康の保持、増進のための体制強化と地域医療の充実促進というのが掲げられています。そして、これもお読みにな

りましたけども、想定される主な取り組みとして、健康づくりにつながる活動に取り組む市民団体への支援など、市民との協働による健康づくりと、次に、がんなどの早期発見のために医療、保健、福祉の各機関における連携強化やと書いています。この連携強化というのは病診連携のことをいっています。この時点では、病診連携の診はわかりますね。これは、開業医さんです。病はどこなのか。これは、本当やったら反問でお聞きしたいんですけども、野洲病院です。野洲病院があるという前提で、この総合計画は成り立っています。

今回、野洲病院が経営継続が困難だと。野洲市がこれ以上支援していても、展望がないと。この部分が抜けるわけですから、自ずから野洲病院というか、中核的医療機関があって、この総合計画が成り立っております。病院が課題になっている。ですから、今回この提案をしているということで、全く総合計画を実現しようと思ったら、今まであえてこういう議論はしてきていませんけども、総合計画を実現しようと思ったら、新病院構想がなかったら困るわけで、お問い合わせの趣旨がちょっとわからないんですけどね。

それともう1つは、これもよく知っていただいていると思いますけども、冒頭の2ページですけども、計画の構成と期間。「なお、計画期間中であっても、必要が生じた場合には、計画の見直しを行います」と書いています。第1次の当初の2も、例えばクリーンセンターは漠然と必要性和書いていました。どこにも具体的に、どこに、どの規模でクリーンセンターを整備するか一切書いていません。でも、私はもう25年経っている、新市の構想の中できちっと入れんとだめなのが、できていなかった。ですから、なってすぐに本当に取りかかっています。今、県内でごみ処理施設がきちっと整備の目処が立っているのは野洲市だけです。先般も大津のOBに出会ったら心配していました。大津市は、家庭ごみを他府県へ持っていくわけです。隣のまちもそうです。クリーンセンターの立地から整備は8年かかるわけです。なぜ、新市の構想になかったのか。あるいは、一番最初の総合計画になかったのか。でも、なかってもきちっと情報開示をして進めてきています。だったら、それも反対されたらいいんじゃないかと、問い合わせられたらいいんじゃないか。なぜ、クリーンセンターの構想予算のときに、立入議員はあ那时候議員だったんですけども、この同じ質問をされなかったのか。不思議です。

以上、お答えといたします。

○議長（三和郁子君） 立入議員。

○11番（立入三千男君） 市長から反問的な発言がされたところでございまして、単純

に私は議案質疑という観点から、今のあわせて４８０万、こういうようなことでの背景を尋ねているところでございまして、当初、一般質問的な凍結の云々の話もしたんですけれども、やはり、議案質疑という観点からふさわしくないという観点から、議案の純粋な、４８０万の経緯、そして、それとあわせてのいろんな背景の見解をお尋ねしたところでございまして。

先ほど、市長の方からずっと野洲病院の理事をしているから知っているやろとか、いろんな発言がございましたけど、私は議案質疑ということで議案だけを聞いているところでございますから、その点について議案質疑で反問というのを聞いて、私の考えを言うというようなものではございませんので、反問の答えは、もし議長が許されたところでも、私は答える気はございません。

ただいまの市長の答弁で、今現在の４８０万の補正予算の計上ということの背景は、承ったということで、私の質問を終わっておきたいと思います。

以上です。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午前９時２０分 休憩）

（午前９時３０分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

市長。

○市長（山仲善彰君） 反問権は、もともと私も基本条例のときには意見を言わせていただいて、よりよく答える、よりよい議論ができるための反問という位置づけでいただきましたから、よそのところは何を聞いてもいいので、場合によったら、嫌がらせに聞けますけど、野洲市の場合は違うと思います。

今回、立入議員から結果的に３問の質問をいただきました。総合計画との関連も、私はこれは関係すると思ったのでお答えをさせていただきました。なぜかと言えば、この予算をつける正当性がどこにあるかといえば、総合計画に根拠があるかないかというご観点だったのだと思います。私は、そこにも根拠があるというお答えをいたしました。

その関連でいきますと、立入議員が質問されて、その真意ということからすると、立入議員は、議員質疑は議案の輪郭を掘り下げのためと思っておられますが、違います。一般質問というのは、議案に提出されていない一般的なものをご質問。議案に出ているものは、議案質疑でやるというのが、これは普通のルールですので、今回これは議案に出ている



るので、予算に出ているので、質問された。でも、その質問の姿勢は自ら賛成か反対かという一定の判断を持って質問をしておられるという前提だと思います。聞いてから答えようということではなくて、あるいはこれから考えていただいても結構なんですけど、私としては、立入議員がもう1回再質問されるかもわからない、もうされないようでありませうけれども、反問として聞きたいのは、これまでの議論の中で、まず立入議員は病院は反対だとおっしゃってきました。反対なら、なぜ調査費の子細を聞かれるのかどうか。あるいは、さっき言ったみたいに、これまでで整理されているとかということよりは、そもそも病院反対だったら、もう違う論点で来られるべきだと思うんですが、再度この場で、まず立入議員は病院に賛成なのか、反対なのか。2年間近くの議論をしております。

それともう1つは、先ほど言いましたように、実質、平成4年5月から平成15年6月まで、1年抜けていますけども、10年近く野洲病院の理事をして、経営の根幹に携わってこられました。今回、この野洲病院が苦況に陥っているのは、私はもう病院のスタッフとか、直接の現場の方ではないと思っています。政策決定です。何回も示していますけども、これが一番古い55年の竣工です。これが、平成3年にできたものです。今回、この平成11年の竣工で21億円を借りています。問題は、当然56年以前ですから、耐震対策ができていない。56年が基準ですから、55年ですから、それ以前ですから。ここが、一番重要な場所です。ここを建てるときに、ここに21億円借りる。そして、市があつてはならない損失補償をする。これも変な契約になっているんですけども、どういう議論をされたのか。立入議員はこの間、まさに平成4年から、これができて、そしてこれからできるまでの間、意思決定に携わっておられたわけです。これは、野洲病院を市が役割を担うかどうかの議論の根幹に関わります。健全に展望が開けておれば、私はこんな提案をしなくていいわけです。ですから、あえて立入議員が議場に立って、今の病院構想の提案に対してご質問されるのであれば、平成4年から10年間、役員としてどういう観点で、どういう問題意識で、そして、北館の建設、そして借入金。野洲市にそれを損失補償させる。一連のことについて、どういう観点でお考えだったのか。この2点について、賛成か反対か。もう1つは、今申し上げた、理事としての問題意識、判断、それについてお答えをお尋ねいたします。

○議長（三和郁子君） 立入議員。

○11番（立入三千男君） 答える気はないと言っていましたけど、今も言うてるように、答えたいと思います。

私は、今言うように、市長は過去にも議論する中で、病院は確かに必要ではないんですかという質問がございました。結局、結論的には野洲市としては病院を持つべきでないという思いをしていますから。しかし、一般的には私も含めて、住民さん全て病院を否定する、要らんという人は誰もいないと思うんです。その背景がある。その背景で、人口5万の野洲市の財政規模では病院経営に、直接市立病院として運営していくことには、やはり将来の財政圧迫を来すという観点から、私は今、言うように、市長は、いや、いろんな診療所にしていて大丈夫ですと言われるんですけど、そっちの方を懸念して、結局、市立病院としてのことに対しては反対やということを言うてます。

それと、もう1つ。過去に私の理事という中で、野洲病院に対しての支援をしてきました。ご承知のとおり、旧野洲町には1つの大きな野洲病院がございましたし、野洲病院への位置づけというのは、地域の中核医療機関という位置づけを行政もしていますし、私も議会もそういうような認識をしていたという中で、背景は不交付団体という、税がたくさんあって豊かでしたから、そういうような中で野洲病院を支援していこうと、中核医療を支援していこうという背景があって、その当時ずっと流れてきたということでございます。

以上です。

○議長（三和郁子君） 次に、第13番、野並享子議員。

○13番（野並享子君） おはようございます。議第68号平成25年度野洲市一般会計補正予算について質問をいたします。

3億2,135万円の補正であります。普通交付税が2億4,927万円の追加であり、繰越金が2億円。さらに、2億880万円、臨時財政対策債の発行をしました。その結果、財政調整基金からの繰り入れが、4億2,900万円減額でき、2億円を基金に積み立てました。これが、全体的な補正予算の中身ではあろうかと思います。

次に、具体的に補正予算の企画費の704万1,000円について質問をいたします。これは、野洲駅周辺構想と新病院整備基本構想の予算が主であります。日本共産党は、これまでから新病院の整備を早期に行うように求めてきました。市民アンケートでも、また、わが党が取り組んだアンケートでも、病院整備は7割以上の方が求めており、市民の健康を守る観点から、市立病院として整備していく今回の補正には賛成をいたします。しかし、財政面や場所など懸念される問題もあることは事実であり、市民に対して丁寧な説明をしていくことを求めています。

次に、何点か具体的にお尋ねいたします。

①新病院整備構想基本策定支援業務委託料420万円ですが、委託先の委託内容をお尋ねいたします。

②新病院整備基本構想検討委員への謝礼として、11人、5回、42万5,000円を予定されていますが、委員のメンバーはどのような方に委嘱されるのか。また、基本構想の検討と策定支援業務の委託との関係はどのようなものかお尋ねをいたします。

③駅南口整備周辺整備構想検討業務委託料ですが、県立大学と立命館大学との共同研究と書かれております。病院の場所も含め検討されると思いますが、新病院整備基本構想との兼ね合いが必要ではないかと考えます。レイアウトも含め、どのようなスケジュールで行われるのかお尋ねをいたします。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 野並議員の、議第68号平成25年度野洲市一般会計補正予算（第3号）のうち、新病院の整備基本構想等に係るご質問にお答えをいたします。

まず、1点目のご質問であります。新病院整備基本構想策定支援業務委託の委託先につきましては、通常こういった病院を整備するときに、構想とか計画を策定する専門的な機関、あるいは事業者へ委託をしようと思っています。医業経営コンサルタント資格者を有している、そういった業者を想定しております。

委託の内容につきましては、先ほど立入議員のご質問にもお答えいたしましたけど、再質問があったらお答えしようと思ったんですが、なかったんで、ちょっと不公平になりますけども、具体的に申し上げますと、これまでの議論の中で福祉、医療、子育て支援、高齢者といった検討もなされています。あるいは今、課題になっています在宅みとり、病診連携ですが、診がこれまで家庭と近いわけですけれども、今の流れとしては、24時間動ける病院の役割、バックアップ体制も重要ですので、そういったこと。それともう1つは、検討の中でも言われていまして、何人かの議員からもご支持いただいています、内視鏡になるのか、何になるのか。いわゆる輝いている部分を何にするのかといった構想も、この中に組み込むということになっております。

次に、2点目の新病院基本構想検討委員会のメンバーについてですけれども、これはまずは、病院ですから専門家ですし、当然、市民的な観点からのご意見をいただきたいですし、幅広く病院に絡む分野の方からもご意見をいただきたい。そして、市民からのご意見をいただくという形で進めたいと思っています。

ただ、これまでも２回の検討会、同じように進めておりますので、メンバーとしては大学関係の、それなりの識見を持っている方等になると考えています。通常ですと、委託業務の中にこういった専門家を頼むんですけれども、野洲市の場合は、ここ２回、作業と提案、チェックを別の組織でやってきておりますので、作業は先ほど申し上げた委託機関でやってもらって、そこに専門家から提案をしてもらってつくり上げていくとともに、その出てきたものを専門家、市民、あるいは関係団体の方にチェックをしていただくという相互作用で進めたいと考えております。

それと、野洲駅南口周辺整備と新病院の基本構想の関係ですけれども、これまでも両方とも並行作業で進めてきております。ただ、今回、病院構想の策定を進めさせていただこうと思っておりますので、これまでの病院の議論でも申し上げていますように、まずは市民にとって使い勝手がいい場所。そして、スタッフにとってもいい場所。そして、経営的な観点からも一番いい場所を優先して選びたいんですが、それが、いつも野並議員がご心配になっただけのように、景観上どうかとか、あるいは野洲駅全体、これは３．５ヘクタールありますから、その中でどうなのかということで、これは当然協議でも職員に言ったんですけれども、フルコースで食べるのか、今日はカレー食べたい、でもカレーだけじゃなしに、カレーを前提にして、スープと前菜を選ぶのかということで、まずは病院ですけど、病院を優先的に議論しますが、それが申し上げたように、全体の計画の中に整合性がとれるかどうかを検討するとともに、チェックをするということで進めていきたいと考えております。繰り返しになりますが、当然、専門家だけじゃなしに、市民の方も入れて、両方ともご議論をいただきたいと思っております。

以上、お答えといたします。

○議長（三和郁子君） スケジュールは。

○市長（山仲善彰君） スケジュールというのは、もう既にお示ししていますように、作業のスケジュールは示していますけれども、これが最終的に３年なのか５年なのかというのは、今のところまだ構想の中で検討するというので、私は今、スケジュールもそれでもってお答えをしたつもりですので、具体的に何年に何とかいうところまでは、現時点では明らかになっておりません。明らかにしませんじゃなしに、明らかになっておりません。

以上、お答えといたします。

○議長（三和郁子君） 野並享子議員。

○１３番（野並享子君） 今、お答えいただきました、①の委託先はコンサルに頼むと。

内容的には、今まで言われていた部分を何がいいのかというところ辺を検討してもらって出してもらおうということですよね。今、言われた内視鏡とか輝いている病院とかいう部分が、野洲の中で何がいいのかというのを検討してもらって、委託されるんですから、当然、報告がありますよね。それは、今年の補正予算ですので、いつまでにその成果表を出してもらおうようになっているのでしょうか。それは、その次の部分にも関係をしてくるんですけども、その３点目の部分ですね。業務の委託、周辺整備構想の委託、これも成果表はいつまでに出示していただくということになっているのでしょうか。というところが、第１点、ちょっとお尋ねしたいと思います。

２番目も同じですね。これも、策定業務の委託ということになっていますので、全体的に成果表をいつリミットにということを出されるのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 野並議員の病院構想等に関する再質問にお答えをいたします。

まず、構想の項目は、先ほど立入議員のご質問にお答えしましたように、基本は機能ですけれども、もう１回、どういった具体的な機能、今、方針では一定の診療科目とかやっていますが、もう一段の精査をするとともに、魅力ある、輝いている部分は何かというので、輝いている部分が何か目的じゃなしに、基本的な部分です。それと、立地も先ほど申し上げましたように、全体で３ヘクタール近くありますから、南口駅前といっていますけれども、本当に具体的にどの場所がいいのかどうかとか、あるいは直営といっていますけれども、体制はどういった体制がいいのかといったのが根幹であって、そこにプラスアルファで特徴、そして福祉、子育て、高齢者の連携のところを入れていくものと考えています。

それと、金額は今も言われたように、普通ですと前からお答えしていますように、普通の半額以下です。これは、これまでの実績と、あと専門家を直接お願いするということで、客観的に安くなっているんだろうと思います。

スケジュールは、これも提案で言っていますように、今のところ、病院については今年度です。場合によっては、私の事業はいろんなことがあって、もう少し検討しようということで、議会の承認を経て繰り越しをさせていただくかもわかりませんが、現時点では年度内です。

それと、駅前周辺整備は、これは当初から提案していますように、後年度の債務負担行為を起こしていますので、提案させていただいていますので、来年度にわたって作業することですから、先ほど言ったように、病院を先に作業を進めますが、あるところま

では同じ作業なので、歩調をとりつつ。ただ、病院にとっては使い勝手、経営性を優先して場所を取りにいきたい。でも、繰り返しですけども、景観、そして野洲全体のにぎわいとか、憩いとかいったことで調整をするという作業で、結構ダイナミックな作業になるだろうと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（三和郁子君） 野並享子議員。

○13番（野並享子君） 景観に関しては、私は一般質問で出していますので、それはまた一般質問でさせていただきますが、全体的な構想があって、その中の病院をどういうふうにしていくのかというのが出てくるのが普通なんですよ。今、出されているのは、病院をとにかく、経営スタッフとかそういうのも含めて、多分、病院の冊子を基本構想という形で出されると思うんです。野洲の人口がどうで何やらで何やらでというふうな、今までの蓄積のいろんな部分をトータルして、病院としての基本構想というのを出されると思うんですけども、市長もおっしゃったように、場所をどこにすれば使い勝手がよくて、利便性があって、スタッフも集まりという形で、それはそれでこの部分でもやっていく。3.5ヘクタールということで、3点目の駅南口周辺整備構想で全体をされていくというところ辺では、何かフルコースでなくて、カレーでせえと今おっしゃったでしょ。フルコースの中にカレーが含まれるので。だから、全体的にどうするんかというのがあって初めて出てくる問題。しかも、我々は何回もいろんなところに視察も行きましたけども、複合施設として、病院単体ではなく、そこにお店もあり、フィットネスもありとか、今までから議論があるように、もっといろんな人が集えるような、そういうものも兼ね備えたものにすればどうかという話もありますので、こういう中でいくと、これは委託されるから、結局、基本設計までいったら金額が出てくるんかもわからないんですけども、この基本構想段階ではそういう部分は全く関係なく、病院だけでされるわけですよ。ちょっと何か、全体的な構想の中にあって、それがあると、順番的にわかりやすいんですけども。成果表として、今年度中に病院の構想だけを出してもら。その駅周辺全体は来年にかけてやっていく。そのところ辺が、ちょっと兼ね合いがいまいちわからないんですよ。

これは一問一答と違うので、3回しかできませんので、ですから、一緒になってやっていかれるんやったらわかる。何かまたひっくり返るんではないかという、ひっくり返ることはないと思うんですけど、総合的な場合の総合施設みたいな形、複合施設みたいな形になったときに、もうこの病院の基本構想はずっとやっぱり生きて、そのままいきますよ

ね。それが、変わるということはないですよ。その確認をしていきたいと思います。両方でチェックをかけていくということをおっしゃったので、専門的なところに委託して、病院の構想を立てていかれるということですから、それが次の全体的な中で変わるということはないですよ。

それと、全体的に私はカレーだけをとにかくつくれという注文をするというのではなくて、やっぱりフルコースの全体的な、今までから２年間かかってどんなんがいいやろというて、皆さん検討委員会で出てきはった人たちも意見を述べてはると思いますので、そういう意味が生かせるような状況にならないとあかんと思いますので、そこを含めて、そして、来年度にわたって検討ということですから、来年の中ごろにはきちっとしたプランができるんでしょうかね。これまた、全協でも言いましたように、人様の土地の上にプランをつくるんですから、そういうふうな形やと、かなりもっとたくさんの人たちの声を聞いて建てないと、この最後の③で問いました、県立大学やら立命館大学が一緒になって検討した構想というのが、絵に書いた餅になったら私はあかんと思うので、そういうことにならないための共同作業が必要と思うんですけども、そのあたりはどうなっているんでしょうか。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 本当はもう少し委員会か何かでやった方が、誤解がないと思うんです。こういうやり方をしていると、ちょっと情報の密度が低くなるので、若干気になるんですけども。

さっきも言いましたように、かなり動的な作業をしないといけないと思っています。病院というのは、今、駅前というのは決めたというか、それで提案させてもらって決めていただいた駅前なわけですね。だから、そんなに大きな動きはないと思います。ただ、何と組み合わせるか、これはあるかわかりませんが、病院というのは、将来の医療制度だとか、経済動向とか、あるいは医療技術の進展によって変わりますけど、基本的には成熟した施設です。それを駅前に整備するというのは、構想は一定立ちます。そこに、まち独特の子育てだとか、高齢化だとかを入れようとしているので、これはプラスアルファの部分ですが、根幹の部分は結構成熟していますので、そこは専門家に提案いただくとともに、研究者から意見をいただいたら一定いけると思います。

それと別に、全体の構想ですが、これも並行して進めますから、閉じこもってやるわけじゃなしに、１つのまちの中で、かつ公開でやろうと思っていますので、病院だけ先に走

っていっても、陣取りをするというものじゃなしに、その情報を動かしながら、全体の絵も書こうということになっています。

ただ、今回の全体の絵は、いい意味で限界があります。研究者と学生と市民でワークショップですから、次は今回、病院でやるように、専門コンサルに出さないといけないと思っています。いつも心配しておられて廊下の幅がどうやとか、病室おっしゃいますけども、7人乗りの車のレイアウトって、ボディの設計はものすごく難しいわけですよ。だから、その部分は今回の駅周辺全体の構想といいますか、計画の中に入っていません。もう一段の検討をしないとだめだと思っています。

ですから、そういう作業の中で、まず病院についてはどれだけの規模で、どこに具体的に。ただ、それも先に取りに行くわけじゃなしに、緩やかに全体をにらみながら。

それともう1つ気になりますのは、確かに全体を決めてから物事をやるというのはいいんですが、さっき言いましたように、時代の変遷とか市民ニーズは変わってきます。ガチガチの計画、例えばブラジリア、オーストラリアのキャンベラ、ああいう行政機能だけだからいいですけども、活力がないまちになりますから、いい意味で柔軟に動かして、この駒が動くことによって、次の展開、人の動き、そして、従来から言っていますように、向かい側の民間の土地利用動向とか、周辺の駐車場の利用動向を見ながら、整備を進めていくわけで、全体といってもガチガチに書いてしまったら、これはかえって問題になりますから、そういう意味では、この際という発想で、大体、日本はこれまで絵を描きすぎて、失敗してきているんですよ。大きな絵は共有化しておかんとだめですけども、その中で皆さんが役割を担っていくと。ですから、J Aを入れなさいとかおっしゃっています。J Aとも今、きちっと話し合いをしています。ただ、J Aさんだけをメンバーに入れて議論するというのは、これはおかしいので、全部、情報を公開しているわけなので、傍聴も来ていただいてもいいし、意見も言っていただいてもいいし、事務レベルでも接触をしています。

これ以上いくと長くなりますけども、まちづくりのやり方というのは、本当にいいものにしようと思うと、全ての情報を公開して、それぞれの立場から持ち寄って、それを統合していくというやり方なので、今、考えているのは、そういうやり方で進めていきたいと思っています。

それで、さっき来年度にわたると言っていましたので、駅前周辺の方は6月とか、遅れても8月ぐらいには一定のものが出てくるだろうと思っています。



以上、お答えいたします。

○議長（三和郁子君） 野並享子議員。

○13番（野並享子君） また、これは委員会で皆さん、議論をされると思いますので、くれぐれも絵に書いた餅にならないようにというところを、本当に思います。駅前に関しては、私も30年間議員していますけども、いろんな絵を見ました。いろんな絵を見まして、本当に出てはつぶれ、あれどないなったん、もうあれなくなったというふうな、本当にコンサルだけをもうけさすような計画でなく、1つ1つ本当に実りあるものがきちっと積み上げられるような、そういう内容にしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（三和郁子君） 続いて、第13番、野並享子議員。

○13番（野並享子君） 議第74号平成24年度野洲市一般会計歳入歳出決算の認定についてお尋ねをいたします。

平成24年度は、民主党の野田政権が自民、公明との3党合意をしたことが重大な問題として、今現在、展開をされています。税と社会保障の一体改革と称して、消費税の増税、そして、年金の引き下げ、医療保険や介護保険の引き上げなどで、年間20兆円の負担増になるということを、この当初予算のときに指摘をいたしました。現在、自民党の安倍政権が、引き続きそれを進めています。8月22日に、自公政権で閣議決定した社会保障削減のプログラムは、年金の引き下げ、支給開始年齢の引き上げ、介護保険要支援1、2を保険から外すなど、26年度、27年度に実施する内容であります。また、TPPへの参加を協議し、進めていましたが、現在も交渉に参加をしております。また、24年4月から年金が物価下落分を理由にカットされました。年金のみならず、障がい者福祉手当、特別障がい者手当、特別児童扶養手当も同様にカットされ、6月からは年少扶養控除が廃止されるなど、弱い立場の方々の負担増になりました。自民党政権が進めていた内容を、民主党政権が引き継ぎ、現在、自民党安倍政権が再度構築しようとしています。

こうした中での野洲市の決算であります。24年度決算で評価すべきこととしては、全学童保育所で6年生まで入所可能になりました。また、全学校の耐震化が行われました。集中改革プランで中止されていたBGのプールがリニューアルし、再開されました。旧中主町の分庁舎を改修し、情報交流館にし、図書館の分館や各種団体が活用できる施設にされたことやコミュニティーバスのコースを増やし、乗り継ぎ料金券の発行で利便性を図られたことなど、いろいろ評価できる点があります。

しかし、全体を見れば、いろいろと問題があります。何よりも地方自治体の使命として、国の悪政の防波堤となって、市民の健康、福祉の向上と安全を守ることにあります。

22、23年度で集中改革プランを行い、6億3,400万円の削減を行い、一部復活したものはありますが、負担の強化とサービスの切り捨てはそのままです。就学援助費の中に、PTA会費などを入れることに対しても拒否をされ、さらに、県下で4番目に高い国保税に対して、市税の繰り入れをゼロにしたり、福祉、医療の負担が強化されています。基金も1億8,000万円増えて、11億円になり、一般会計の実質収支額は、3億7,300万円の黒字となっており、集中改革プランで削ったものの復活など、弱者に対する負担軽減をすべきですが、見解をお尋ねいたします。

次に、同和対策事業では、個人施策を見直し、徐々に減免率は削減されており、公営住宅の入所も一般施策化され、老人医療費の助成も25年度、一般施策化され、同和促進協議会も27年度で解散など、同和行政の終結のために行政と地域の方々との協議が行われていることに、心強いものを感じます。

しかし、24年度の事業実績及び25年度計画を見ますと、26年度には生活実態意識調査を行うとなっており、いつまでも施策を続ける根拠にしようとしています。コミセンを利用する団体に、人権学習を義務づけ、出された意見などの報告書の提出を求めていることや自治会やPTAや企業などにも同様の押しつけ啓発をしています。隣保館事業や啓発の事業費も、1億8,524万円にもなっています。これらは、人権条例に基づいたものであり、人権条例を廃止し、隣保館事業もやめ、憲法に基づいた基本的人権の普及に徹すべきですが、見解を求めます。

法人市民税の還付について、お尋ねいたします。

1億1,599万8,300円と、実績報告書に書いてありますが、会派勉強会でそのほとんどは村田製作所に1億円の還付で4.3%の利息、285万円をつけたと言われていましたが、市中銀行での金利はゼロ金利であります。大企業は、予定納税をした方が銀行に預けるより有利というのも少し変ではないでしょうか。これは、全国の自治体が抱えている問題でもあるかと考えます。地方自治体から、このような不合理の声を上げていくべきと考えますが、見解を求めます。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 野並議員の、議第74号平成24年度野洲市一般会計歳入歳出決算の認定についてのご質問にお答えをいたします。

まずは、集中改革プランで削減した項目の復活等についての考え方ではありますが、これはもうご承知のように、集中改革プラン、財政的に本当に危機状態でしたので、市民、職員の協力を得まして、プランを実施しました。そして、この中には2つ要素がありました。当初から申し上げていましたように、まずはやはり我慢をお願いする部分。それと、負担の公平性、健全化を図る部分です。我慢をお願いする部分については、基本的に戻していると思っています。自治会の活性化の支援のお金、そして、職員の給与。職員の給与だけでも2億4,000万削減をいたしましたけども、こういったものは戻しています。

ただ、負担の公平化ということから、一例で言いますと、当時は循環バスとっていましたが、バスの負担、高齢者の方は無料でしたけども、100円をいただく。そのかわり、全ての方、均一で470円ぐらいなのも、今200円か100円になっています。これは、近隣を見ていまして、無料はなかったということで、100円は継続をしております。

こういったことが残っているだけであって、今回、決算の中で3億8,000万の黒字とはなっていますが、これは、公会計の性格でして、基金を崩したり、あるいは繰入金を入れての黒字でして、実質の収支、これはもう既にお示しをしていますけれども、2億5,000万の赤字となっています。帳簿上は黒字ですけども、こういったことで、現時点では健全化したものをプラスして、サービスを供給するということができるんし、財政をゆがめるとしています。

それと、いろんな施策をご評価いただきましたけども、問題もいっぱいあるとおっしゃいました。当然でして、問題なしにしようと思ったら、財政が幾らあっても足りません。本当に市民生活にとって、どこが重要なのか、危機的なのか、あるいは市にとって何が必要なのかという観点からやっていますから、当然、問題が残ったと思っています。野並議員に全てご評価いただいたら、野洲市は経営困難になるんじゃないかなと思っています。まず1問目は、以上、お答えいたします。

次に、人権条例の廃止についてと同和対策事業の絡みですけども、議長が今、許されましたので、お答えいたしますけども、条例廃止というのは、議案質疑でもないですし、決算認定に絡むものではないと私は思うんですけども、あえてご質問が成立しておりますので、お答えをいたします。

同和対策事業というので、今やっております。一部、個人のための支援とかありますけれども、これはご承知のように、かつて特別措置法があって、事業がされてきました。そ

の流れの中でやっております。その流れで計画をつくって、実施をしているということでありまして、ご指摘の人権に係る条例の流れとは体系が違います。人権の体系としては、いわゆるソフトウェアとして、差別がない、人権を守る。当然、この中には今部落差別に絡むものも含まれておりますので、昨日も夕方、市民の方と一緒に、啓発という言葉はあまり私は好きじゃないんですけど、いわゆる啓発をしましたが、こういったものはまちづくり条例の中ですけれども、個人施策等は体系が違いますので、条例をなくしたところで、市の仕組みとしては残りますし、いずれにしても、ご指摘の条例を廃止するつもりは全くございません。

最後に、法人市民税の還付につきましては、以前ご質問いただいて、私も論外だと思っています。昔の高金利、7%とか6%あったような時代を前提にしていますので、すべからくやめてもらわないと、市民の税金で大企業の貯金の利息を賄っている、これはとんでもないもんですので、ご指摘を待つまでもなく、私もおかしいと言っていますし、現に近畿圏内111市で組織しています近畿都市税務協議会からも、国に対して強く廃止の要望を行っているところであります。

以上、お答えいたします。

○議長（三和郁子君） 野並享子議員。

○13番（野並享子君） 1点目の集中改革プランで削ったものの復活をというところですが、本当に大きなお金でなく、この就学援助のPTA会費などは、国がそこに入れよと言って指示を出しているぐらいの内容で、そんな莫大なお金ではないので、いろんな意味で、国民年金満額もらっても7万に届かないという層の人たち。そういう方々の弱者に対するところは、やはり復活をしていくとか、配慮をしていくとかということをやらないと、どんどんと国も生活保護基準を引き下げていっている中で、下を見て暮らせみたい、とにかく生活レベルを下げていく。来年には、消費税の増税、再来年には10%というところで、それは一律にかかってくるという、負担が本当に重くなってくるのが見えていますので、ここら辺はもう少し検討が必要ではないかと思います。検討をすべきだと思うんです。

2点目の部分ですが、野洲市が平成27年度でもってやめていこうという、そういう計画をされて、着々と進められていっているということに関しては、本当に職員や地域の方々の大きなご理解の中で進んでいると思っております。

しかし、この人権学習という形で、本当にこれは市長も啓発って嫌やとおっしゃいまし

たけど、押しつけなんですよ。コミセンを利用している団体に、年に1回はして、そこで出た意見を報告書に上げるという。それは、コミセンだけじゃなくて、自治会やPTAとか、企業の同和研修という形で、こんな形で押しつけをしていっているようでは、本当の啓発にはならない。だから、こういうような部分が結局は、人権条例の中で、市の責務として啓発をすると出ていますからね。それを根拠に啓発という形が出てきていますので、だからやはり、根拠があるから出てきている。同和行政そのものの終結という形でやめてしまっている、何かも私は議会ですべてにやめてしまっていますように、本当にやめてしまっています。だから、条例に基づいて、次また、26年度には生活実態調査を行うと書かれていますのでね。だから、そういうところで私は次年度に対して、今、26年度は来年度ですからね。この決算の中で指摘をしておきたいんです。26年度でこういうことまで、まだやろうという形で計画が入っていますので、これはやめていって、条例に基づいてという形になりますから、根本的な条例をやめて、啓発というものをやめ、実態調査というのも、もう終結しているところでは、実態調査などこんなことはしておられません。ですから、そういう意味では、こういうことを出してきました。根拠に基づいたものですので、決算と違うということではありません。これが根拠になって、これが出てきていますのでということで、またこれも総務の委員会の中で議論がされると思いますので、表明をしておきます。

還付についてですが、4.3%が来年は2%になるとか、徐々に下がってきていますが、それでもいまやもう本当に0.00という形の金利ですから、ゼロ金利でいっていますので、この企業の損益計算書とか連結決算とか、いろいろ株主総会で出されているのを検索しましたけども、ようさん利益上げてはります。実行税率としては、法人税の実効税率が1.9%なんですよ。いっぱい引当金とか、開発何とかかんとかありまして、法定の税率が37.8%なんですけれども、実際払っておられるのが1.9%という形で、本当に大企業に対して優遇な形になっていますので、こういう地方自治体が、税金の中から利息を出していくというのは、本当にちょっとおかしいと思いますので。来年、2%となっていますけども、来年からゼロにでもしていただくぐらいに頑張ってくださいますように。私も国に向かってものも言っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（三和郁子君） 以上で、通告による質疑は終了いたしました。

これをもって、質疑を終結いたします。

これより、議案質疑に対する関連質疑を許します。

関連質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（三和郁子君） 関連質疑がないようですので、これをもって、関連質疑を終結いたします。

（日程第４）

○議長（三和郁子君） 日程第４、議第６８号から議第７３号まで及び議第８５号から議第８７号まで、平成２５年度野洲市一般会計補正予算（第３号）他８件を一括議題といたします。

ただいま議題となっております議第６８号から議第７３号まで及び議第８５号から議第８７号までの各議案は、会議規則第３９条、第１項の規定により、議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に審査を附託いたします。

（日程第５）

○議長（三和郁子君） 日程第５、議第７４号から議第８４号まで、平成２４年度野洲市一般会計歳入歳出決算の認定について他１０件を一括議題といたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議第７４号から議第８４号までの各議案は、会議規則第３９条、第１項ただし書の規定により、議案付託表のとおり決算特別委員会に審査を附託いたしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（三和郁子君） ご異議なしと認めます。

よって、議第７４号から議第８４号までの各議案は、議案付託表のとおり、決算特別委員会に審査を附託することに決定いたしました。

暫時休憩いたします。

（午前１０時２２分 休憩）

（午前１０時４０分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（日程第６）

○議長（三和郁子君） 日程第６、これより一般質問を行います。一般質問通告書が提出されておりますので、順次、発言を許します。その順位は、一般質問一覧表のとおりであります。なお、質問にあたりましては、簡単明瞭にされるよう希望いたします。

それでは、通告第１号、第１番、矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 1番、矢野隆行でございます。我々、20名の議員にとっては本当に今期、最後の定例会になるわけでございますので、しっかりと質問いたしますので、明確な答えをお願いいたします。今回、3点にわたって質問させていただきます。

まず、はじめでございますけれども、災害時要支援者の避難対策についてお伺いさせていただきます。

災害時に自力で避難することが難しいお年寄りや障がい者など、災害時要支援者の名簿作成を市町村に義務づける改正災害対策基本法が先の第183回の通常国会で成立しております。この改正法では、これまで曖昧だった個人情報の取り扱いが明確化され、名簿の整備と情報提供が進むことが期待されるところでございます。従来の制度でも、災害発生時における高齢者などの避難支援の指針など、災害時要支援者の避難支援ガイドラインに基づき、名簿作成を市町村に求めていましたが、義務づけがされていないため、作成している自治体は、全体の6割程度にとどまっておりました。幸いにも本市野洲市におきましては、私も何度も一般質問させていただきまして、名簿の整理はできあがっていますので、この点はよかったと思っております。

今回の改正によりまして、要支援者の名簿作成が市町村に義務づけられています。名簿は本人の同意を得た上で、消防や民生委員など関係機関にあらかじめ情報提供しますが、いざ災害が発生した場合は、同意なくても必要な個人情報を提供できるとしております。ただし、この個人情報を厳格に保護するため、情報を知り得た人に対しては機密保持の義務をあわせて求めています。

この名簿の整備、共有は、避難支援を円滑に進めるための第一歩に過ぎず、避難支援の取り組み自体は、自治体側の入念な準備にかかっているところでもあります。弱い立場の人たちをどう守るのかというのが、次なる大きな課題であり、それぞれの地域社会に投げかけられている状況であります。発災時に、個人の支援、行動計画を事前に細かく決めて訓練するなど、いま一度、日ごろから地域で高齢者や障がい者を支える体制を整備することが重要になります。

今回の改正には、名簿作成義務の他に、避難所における生活環境の整備も明記しているところでもあります。安全性を満たした施設を確保する一方、食料や医療品などを用意し、医療サービスの提供にも努めるとしております。さらには、東日本大震災でも避難生活が長期化したことで、病気や体調の悪化などが原因で亡くなる、いわゆる震災関連死が相次いだことから、福祉避難所の普及、整備についても本腰で取り組むべき課題は、今、山積

しているところでございます。

そこで、次の何点か伺わせていただきます。

まず、1番目に、本市では既に名簿の整備ができていますが、登録者数、また名簿更新はどのくらいの周期でされていくのか、こういった点を伺わせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） それでは、矢野議員の災害時要支援者の避難対策についてお答えをいたします。

本年3月1日現在の登録者数につきましては、76人であります。また、更新の周期でございますが、年1回でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 次、2点目でございますけれども、現時点で、本市の要介護者支援の対象者は、どういった方にされているのか。私の調べたところによりますと、要介護3以上、また身体障害者手帳、1級、2級の人。また、65歳以上の単身の高齢者などとなっておりますけれども、そういった点を少しお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 市がリストアップしております対象者につきましては、要介護または要支援の認定を受けている方、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、65歳以上の高齢者のみの世帯でありまして、その他、各自治会で支援を要すると判断する方が対象でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） ちょっと確認させていただきますけれども、私の調べたのでは、要介護3以上となっている。その他、各自治会で支援を要すると判断される方、こういった方はどういった方になられるのか、それをちょっとお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 先ほど、要介護認定の3以上の方、あるいは障害者手帳の1級、2級ということでお尋ねでございますが、私ども、この支援計画をつくるときに、もう少し幅の広い意味での対象者をリストアップさせていただいております。

それから、各自治会で支援を要すると判断する方の規定でございますが、これは一例でございます。例えば、体が要介護状態にあっても、本人でありますとか、家族の意向で要介護認定を受けていない人でありまして、外国人で日本語が通じない人など、こういった



た方々が想定されております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） わかりました。

3番目ですけれども、避難の実効性を高めるための本市の取り組みについてお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 災害に備えました防災訓練につきましては、毎年、市をはじめ、各自治会でも実施をいただいているところでございます。今後、あらかじめ想定される要援護者の実態に応じた避難支援のメニュー化等を行いまして、実効性のある支援者等の訓練を実施してまいりたいと考えてございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

4番目ですけれども、この大規模災害時における避難行動における要支援者の支援というのは、こういった形でされるのかお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 大規模災害の場合ですと、市町村そのものの機能の一部または全部が崩壊する可能性がございますので、地域防災計画でありますとか、災害応援協定等による広域的な支援を要請いたしまして、要援護者の安否確認と避難誘導を実施してまいりたいと考えております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 次、5番目ですけれども、このたびのガイドラインの見直しの方角性として、平常時からの市町村の組織づくり、また地域共助力、これは自治体との連携でございますけれども、これを高めるための地域づくりと人材育成、こういったものにどう取り組まれるのかお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 地域の共助力を高めるためには、要援護者に自治会行事への参加を呼びかけるなど、日常の地域のさまざまな活動を通じて、人と人とのつながりを深める環境づくりが必要であると考えております。

また、人材育成につきましては、自治会の自主防災組織の構成員等に対しまして、保健や福祉といった分野の研修も取り組んでいただくことも手法の1つであると思いますので、

これらのことなどを自治会に取り組んでいただく働きかけが必要であると考えております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 続きまして、6番目でございますけれども、支援を要する方に対します地域の関係機関との連携、体制についてお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 災害時には、各分野の身近な方々の支援、共助が不可欠でございますが、災害の規模が大きくなりますと、こうした方々も被災する可能性が大きくなりますので、広域的な連携等が必要となってきます。

そうしたことから、現在、策定中の地域防災計画では、災害の状況等に応じまして、他の団体、県、国への対応、応援要請を行う計画を進めております。また、同様に、医療の分野におきましても、広域の後方医療体制の支援も、当然のことながら計画に盛り込むことといたしております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） それでは、具体的にですけれども、避難行動と避難生活、こういった生活における要支援者に対する支援は、どう体制づくりをされるのかお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 要援護者の避難行動につきましては、災害時、要援護者登録制度の登録者にありましては、まずは、避難支援個別計画書に基づく支援者による避難となりますが、災害時に支援者が要援護者の近くにいるとは限らないことから、その場合は、自治会住民等の身近な方々が登録者であるか否かにかかわらず、支援行動を起こす日ごろの取り組みが必要であると考えております。

また、避難生活の支援につきましては、自治会、民生委員、社会福祉協議会、社会福祉関係施設など、幅広い関係者の協力を得ながら、支援の確保に努める必要があると考えております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） それでは、具体的ですけれども、この要支援者の個人情報共有するためのルールづくりと支援のあり方について定めた要支援者支援条例というのがつくられておるところもあるんですけども、本市でそれが似合うかどうかかわかんないんですけど、それについての見解を伺わせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 全国では、要支援者支援に関する条例は、災害対策基本条例という名称の中で規定しております事例がございますが、要支援者支援に特化した条例につきましては、神戸市のみで、これは議員提案によって成立した条例でございます。

ご質問の内容につきましては、関係法令や本市の現行の制度、具体的に申し上げますと、災害時要支援者避難支援計画でありますとか、災害時要援護者登録制度実施要綱、こういった中で対応できる状況でございますので、条例の制定までは現在のところ考えてございません。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） わかりました。

それでは、9番目でございますけども、災害発生時、こういった必要な情報が大変重要になりますけれども、正確、迅速に伝えるための情報伝達と避難誘導、また避難所におけるこういった配慮はどういうふうにされるのかお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 情報伝達につきましては、災害の大きさにより情報伝達手段の一部が麻痺する可能性がございます。現在、策定中の地域防災計画では、情報連絡体制の多重化を図るべく、市の防災行政無線、県の防災情報システム、衛星携帯電話、衛星通信、電子メール、ファックス等から広報車に至るまで、さまざまな手段を計画しているところでございます。

次に、避難誘導につきましては、市の救護避難対策班を中心に、警察であるとか消防の協力のもとに実施をいたしまして、それと自主避難をした住民に対しましては、避難所の責任者または避難誘導要員との連絡体制を確保する計画をしております。また、災害応急復旧活動の交通手段となり得る主要道路におきましては、守山警察署と協力をいたしまして、自動車の避難を規制する計画もしております。

次に、避難所における配慮につきましては、障がい者トイレでありますとか、スロープ、それからファックス、文字放送テレビの設置などを計画しております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 最後、10番目でございますけども、災害発生後、一般の避難生活が困難な、先ほどから出ています高齢者、障がい者などの要支援者を市内の福祉施設等と受け入れる福祉避難所の開設等が考えられますけど、こういった体制はどうしていかれ

るのかお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） 福祉避難所につきましては、本年度に指定をする予定をしております。予備調査では、介護関係施設でありますとか、障がい者施設からの受け入れについての、おおむね前向きな回答をいただいております。市といたしましては、要援護者の支援ができる設備でありますとか、専門のスタッフなど、受け入れの体制が整備されておりますこうした施設を指定する考えでございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） わかりました。

では、大きく2つ目に入らせていただきます。商店街と地域の活性化に関する取り組みについてお伺いさせていただきます。

先ほど、政府の大胆な金融緩和策などによりまして、株価の上昇をはじめとする景気浮揚の兆しが少し見え始めているところであります。デフレ脱却などが期待される中、経済再生の次に取り組むべき段階は、それらの効果を実態経済の改善につなげることでと考えております。そのためには、賃金上昇や雇用拡大などの成果が実感できるよう、各地域が行う地元活性化策が重要な取り組みなるのではないかとと思うところであります。

中小企業庁の平成21年度調査によりますと、商店街の空店舗数は、平均1商店街当たり5、6倍であり、空店舗率、空店舗数を全店舗数で割った数値でありますけれども、これが10.82に達しております。平成15年度調査以降から増加傾向になっている現状があります。商店街の活性化は、地域経済の取り組みとして不可欠であり、まちづくりの中心となる商店街や中心市街地の空洞化対策が今、急がれているところであると思います。

先の参議院選挙におきましても、全国遊説第一声で発表された政策の骨子では、「実感できる経済改革、その成果を地域に、中小企業に、生活者に」との一項が掲げられておりまして、好調な経済対策を支えると同時に、その経済成長の果実を地方経済や、また中小企業にもたらし、さらには若者や女性をはじめとして雇用を拡大し、国民お一人お一人の所得の向上につなげますとうたっておりました。具体策といたしましては、今後、地方の活性化として雇用の確保や地方都市の活性化などが挙げられているところであります。

そこで、予算確保がもう済んでいると思いますけれども、こういった事業に対する本市の取り組みについて何点か確認させていただきます。

まず、1番目でございますけれども、地域住民のニーズを踏まえ、施設の整備、店舗の

集約化と商店街等による地域コミュニティ機能再生に向けた取り組みを支援するとともに、空店舗活用事業や地域資源を活用した集客事業等の商店街活性化に向けた取り組みというのが予算化、名称は地域中小商業支援事業というのが新規で予算化されておりますけれども、本市のこれに対する取り組みについてお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 矢野議員の商店街と地域の活性化に関する取り組みについてのご質問にお答えをしたいと思います。

まず、国の予算確保がなされている商店街活性化に係る、通告いただいているご質問の5つの補助事業制度でございます。このうち、2問目と6問目が同じ事業名になっておりますので、補助事業としては5つだと思っております。

現在、市内で取り組まれている事業はございません。これらの補助事業を実施するには、事業主体が商店街組織、これは商店街振興組合法に基づいての組織、または任意組織でございます。あるいは、商工会、まちづくり会社やNPO法人など、民間事業者であり、事業補助率が3分の2以内、あるいは2分の1以内となっております。補助金の上限額につきましても、事業により異なりはいたしますが、400万円から5億円となっております。3分の2、2分の1ということでございますので、自己負担分の金額の事業費を確保していくということが前提となってきます。

また、手続きといたしまして、事業主体が補助金を交付する国、中小企業庁や全国商店街振興組合連合会、これも先ほどの法律に基づいた組織でございます。これらなどと直接協議をし、事業実施の確実性や効果など審査を経て採択される必要がございます。その後、補助金交付申請ということになってまいります。現在、野洲市内で補助対象となる団体では、各種の補助事業の活用をして取り組む計画はされていないということでございます。こうしたことを踏まえてご答弁を申し上げたいと思います。

最初に、地域中小商業支援事業の事業主体でございます商店街振興組合、これは法に基づいた組合でございます。また、事業協同組合等において組織される法人格を持った商店街組織、任意の商店街組織またはまちづくり会社、NPO法人など、民間事業者となります。野洲市では、その事業主体として事業実行可能な団体や組織がございません。こうしたことから、今現在、同事業の取り組みがされていない状況となっております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 6店ほど出しましたが、ほとんど取り組んでいないという答えでございますけれども、確認のために、もう一度、こういった事業があるということを認識するためにも、ちょっと質問してまいります。

2番目でありますけれども、要するに中心市街地活性化に基づき、内閣総理大臣の認定を受けた市町村においてまちづくり会社等が実施する取り組みを支援する。これは、具体的には1つ目といたしましては、まちの魅力を高めるための事業化調査。2つ目は、先導的、実証的な取り組み。また、3つ目は専門人材の派遣に対する重点的支援を行う。この名称といたしましては、中心市街地魅力発掘・創造支援事業補助金、新規でこれもされております。これに対する考え方をお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 2番目にご質問いただきました中心市街地魅力発掘・創造支援事業、この事業主体につきましては、まちづくり会社、商店街振興組合または商店街振興組合連合会、事業協同組合、事業協同小組合または協同組合連合会など、商工会や商工会議所もこれに含まれるということでございます。

野洲市では、残念ではございますが、この事業主体についての事業実施可能な団体や組織がございません。また、商工会においても現在、同事業の取り組みがされていないという状況でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 答弁していただいたとおりが、実態ではないかと思います。

また、3つ目も同じような答えかもしれませんが、これもちょっと確認させていただきます。

商店街振興組合等が地域の行政機関等からの要請等に基づいて、地域住民の安心、安全な生活環境を守るための施設、整備ということで、例えばですけれども、防犯カメラの設置、街灯の設置、また高齢者の生活のための助成や若手の創業者による空店舗の活用、こういったのがありますけれども、こういったものに対する補助金等はございますけれども、これは商店街まちづくり事業、これは既に前から始まっておりますけど、この取り組みにつきましてお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 3店目の商店街まちづくり事業の事業主体でございますが、これは商店街組織でございます、具体的には、先ほど申しております商店街振興組

合、事業協同組合などでございます。こうした法人格を持った商店街組織が、任意団体でございしますが、これが野洲市では、そうした団体や組織がございませんので、同事業の取り組みにつきましては、されていないというのが実態でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 実態でございます。

さらにまだいきますけれども、4番目ですけれども、地域の中小商業者が行う、いわゆる集客力向上の取り組みや消費喚起イベント等を支援する対策もでございますけれども、これは地域商店街活性化事業というのがございます。これに対する取り組みについて、お伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 今まで、ご回答申し上げたとおりでございますが、こうした任意の商店街組織が含むものでございますが、そうした実態がないということで、組織がないということで、この事業についても取り組みがされていないという状況でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） これが、実態であります。

同じように、5番目ですけれども、共同宅配や移動販売等の事業に対しまして補助を行い、買い物に不便を感じる高齢者等の、いわゆる買い物弱者に対し、円滑な商品購入機会を確保する対策、こういったものもございます。これは、地域自立型買い物弱者対策支援事業、これも既に行われた事業でありますけれども、この事業に対する対策をお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 地域自立型買い物弱者対策支援事業、この事業主体におきましても、商店街振興組合、商工会、商工会議所やNPO法人等でございます。市においては、先ほども言うておりますように、事業主体としての事業実行可能な団体や組織がないことや、商工会におきましても、この事業に取り組みがされていないという状況でございます。

今ずっと申し上げておりました事業の取り組みがされていないということですが、まずは組織ができていないということでございますので、野洲市の商工業振興指針に基づきまして、やる気のある事業者や団体と連携いたしまして、まず組織の基礎固め、地盤固めと

いうことをしながら、こうした補助事業を活用できるようにはしていきたいとは思っております。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 今の部長の言葉を堅く信じておきます。このように、基礎固めというか、野洲市もこれからそういったものを中心に、商店街が元気になることが、本当に野洲市の活性化につながるのではないかと指摘させていただきます。先進地の事例をちょっと紹介しようと思ったんですけども、もう意味がないと思いますので、やめておきます。

3点目でございますけれども、民意を表す投票率上昇についてお伺いさせていただきます。

民主主義におきまして、投票は一般に選挙のことを意味しております。選挙とは、有権者がその職にふさわしい人物を候補の中から選ぶことであります。政治における投票は、民主主義による有権者がその政府の代表者を任命することであるとされております。この票といいますのは、個人の投票行動であり、特定の動議、特定の候補、または特定の候補者の選抜に対する支持や選好が表明されていることになります。これまで、無記名投票は秘密投票の原則を守る標準的な方法であり、大抵の投票所で行われることになっております。この投票行動は、多くの国で任意であります。例えばオーストラリア、ベルギー、ブラジルなどでは、義務投票制が採用されておきまして、これらの国では、投票率が非常に高くなるところであります。

投票率は、その地域における投票参加の意識の度合いを表すものとして使用されていることになっております。この投票率が低いほど、組織票の割合が大きく、浮動票の割合が少なくなることは、言うまでもないことであります。独裁国家では、形式的な選挙で、自らの政権を正当化するために、国民を動員した上で強制的に自政権に投票させて、高い投票率となる事例がしばしば見られておりました。かつて、北朝鮮では100%に近い投票率であることがギネスブックにも載ったことがあります。そこで、先進国の民主主義国家では、例えばオーストラリアは投票率が90%を超えております。これは、棄権者に罰金を科する、いわゆる義務投票制を採用していることが影響しているとされております。

わが国においても、民意を表す大事な選挙でありますので、これまで投票率を上げるための対策がさまざまとられてきております。例えば、この野洲市におきましても、告示、公示以降、翌日から午前8時半から午後8時まで、市役所の1階特別室にて期日前投票ができます。お仕事等で当日、投票所に行けない方がご利用することができます。これまで



の選挙での投票率は、これは参考でありますけれども、参議院議員通常選挙の最高投票率でいきますと、１９８０年、第１２回で７５．５４％ありました。また、低い方では、衆参同日選挙最低投票率が、１９９５年の第１７回で４４．５２％でした。さらに、参議院補欠選挙、これが最低投票率でありますけれども、１９９１年の参議院埼玉選挙区補欠選挙で、１７．８％であったことがあります。

そこで、投票率を上げるための取り組みといたしまして、今は期日前投票に行くと、期日前投票宣誓書という書類に記入しなければならないシステムになっております。この手間を省くために、市民の皆さんへ届きます投票入場券に期日前投票宣誓書と一緒に印刷されている先進地があります。これは、市民の皆様といろいろ話しているときに、期日前投票に行って、期日前投票所で期日前投票宣誓書にいろいろと記入するのが何かと緊張するので、何とかならないのかという意見の中で実現したものであります。私も、本市において同じような意見をさまざま聞いております。その先進地では、現在既に行われておりまして、この期日前投票における宣誓書の記入も簡単になり、投票率向上につながっているとのことであります。

総務省に確認しましたところ、投票所入場券の活用についてという文章があり、都道府県に送られているところでありまして、滋賀県選挙管理委員会に確認しますと、昨年度１１月２９日に各市町村の選挙管理委員会に対する説明会で、その文章が渡されたとのことでありました。総務省からのその文章を読みますと、期日前投票の際に提出する宣誓書につきましては、選挙人が事前に記載することができるよう、例えば、投票所入場券の裏面に様式を印刷する、投票所入場券の交付の際に同封するなど、市町村において創意工夫し、選挙人の便宜に資するよう努めることとありました。

そこで、提案でありますけれども、各有権者の方に配付されている投票所入場券の裏、もしくは同封で期日前投票の宣誓書を送っていただくことはできないでしょうか。また、有権者の方が落ち着いて自宅で記入していただくよう、こういった形でできないでしょうか。それが不可能であるならば、せめて事前にダウンロードできるように改善していただけないでしょうかと提案させていただきたいところであります。

次に問題なのは、これからの高齢化社会におきまして、高齢者、また障がい者にとって投票所まで歩いて行くのが大変つらいとの声も、今お聞きしている状況であります。この期日前投票所にしろ、当時投票にしても、そこまで行かなくては投票できないのが現状であります。ある条件を満たすと、郵送の手続きで投票ができますが、なかなかこの条件に

該当するのが大変な状況の方が増えておるのが現状であると認識しております。

そこで、何点か伺いさせていただきます。まず、1番目でありますけれども、本市の投票率の状況は近年、こういった状況になっているのか、伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（新庄敏雅君） 矢野議員の、民意を表す投票率上昇についての投票率の状況についてお答え申し上げます。

本市の投票率は、国政選挙におきましては、おおむね全国の投票率より数パーセント高い数値で推移をしており、昨年の衆議院選挙では65.70%。先の参議院選挙では、57.41%でした。また、市議選につきましては、前々回が64.83%、前回が60.96%となっております。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） 2番目でありますけれども、投票率を上昇させる施策につきまして、先ほどから申しておりますけれども、期日前投票用紙の利用につきまして、宣誓書を投票所入場券裏に印刷すること、また、宣誓書の事前配付等、またホームページにダウンロードできるシステムの構築を提案したいと思っておりますけれども、これについて見解を伺わせていただきます。

○議長（三和郁子君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（新庄敏雅君） 期日前投票の宣誓書につきましては、事務局でも検討をしているところでございます。入場券の裏面への宣誓書の印刷は、有権者の負担軽減にも有効であると考えておりますので、記載内容を検討して、実施をしていきたいと考えております。

また、宣誓書につきましては、先の参議院選挙でもホームページ内にダウンロードできるように掲載をしておりましたが、もう少しアクセスしやすい工夫というのを今後検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） それでは、3点目でありますけれども、これからの高齢化社会を迎えるにあたりまして、投票所をもう少し近くにできないのかというお声をかなり聞いておるんですけれども、近くにできないかという声に対しましての見解をちょっと伺わせて

いただきます。

○議長（三和郁子君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（新庄敏雅君） 投票所の数ということでございますが、現在、合併前から引き継いだままの投票所ということでございますが、現在、有権者数からみた投票所の数では、県下では多い方になっております。また、先の参院選におきましては、投票所の経費が大幅に引き下げられました。このことによって、少し派遣職員も増やしながら、投票所の経費も削減に努めているところでございます。

こうしたことから、投票所数は有権者数とか投票所の立地環境、また国政におきますと、国の交付金などを踏まえながら、少し全面的に見直しをする必要があると考えておるところでございます。なお、これまで各投票所につきましては、スロープの設置とか車椅子の配置など、高齢者を含めた誰もが投票しやすい環境づくりにもあわせて取り組んではいるところでございます。

以上でございます。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） それでは、4点目でありますけれども、この郵送による投票の条件緩和でありまして、これは法律で決まっていまして、現状では大変難しいと思いますけれども、高齢者に対する対策、こういった問題に対する解決についての本市の考え方をお伺いさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（新庄敏雅君） 郵送ということで、不在者投票の条件緩和ということになるかと思っておりますが、対象者の範囲を障がいのある人及び要介護、現在は5と定められております。改正されて10年近くが経過するということですので、改めて議論をいただく時期にもきているのではないかと考えております。なお、全国の市区選挙管理委員会連合会からも、対象者を拡大するようには、現在、要望をしているところでございます。

以上。

○議長（三和郁子君） 矢野隆行議員。

○1番（矢野隆行君） これは、私の思いでありますけれども、先ほど部長がおっしゃっているように、郵送における不在者投票者は、身体障害者手帳か精障病者手帳をお持ちの方の選挙人、こういった方がされておりまして、また、中には介護被保険者の要介護5の

方のみ、平成16年3月よりなっておるわけであります。こういったものを要望していた  
だいているということなんですけれども、これは私の考え方を少し述べておきますと、こ  
の内容に該当しない高齢者の方が現状増えている中でありますけれども、この貴重な1票  
を投票したいというお声をかなり聞いておりまして、投票所まで歩くには少し遠過ぎるか  
ら行けないのであきらめておられる方が多数おられるわけでありますけれども、そこで提  
案であります、このような状況の方に対しまして、この貴重な1票を投票させるために、  
そういった方に対します予約制にしては、投票所まで搬送していただく制度を野洲市から  
構築していただけないのか。また、総務省のホームページには、やっていけないというの  
は、見渡すところどこにも書いておりませんので、こういったのをちょっと提案しておき  
ますので、また今後の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上であります。ありがとうございました。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。再開を、午後1時といたします。

（午前11時26分 休憩）

（午後 1時00分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告第2号、第8番、丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 第8番、丸山敬二です。

それでは、一般質問。市長への手紙の主なご意見と回答についてということで質問をさ  
せていただきます。お手元に市長のご意見、ご提案、野洲市ホームページの資料をちょっ  
と配付させていただきました。質問の内容をこれに基づいていきたいもので、ご理解して  
いただくために配付させていただきましたので、ご覧いただけたらと思います。

平成22年10月に、路上喫煙防止条例が施行されまして、野洲の駅前広場を中心に喫  
煙禁止区域が設定されました。その後、1年3カ月ぐらい経ってから、北口と南口に喫煙  
所が設置されました。そして、この設置後、喫煙所等に関する市長への手紙が数件ありま  
した。その中で、平成25年5月受付分のMの13014、野洲駅南口の喫煙所について  
の回答内容に、少々理解というか、納得しにくいところがありましたので、その真意、詳  
細について説明をお願いしたいと思います。

まず、一般社団法人野洲市給与所得者の会と野洲市は、ほぼ毎年、行政懇談会を行っ  
てきました。平成23年度の懇談の前に、南口のトイレの横に喫煙所を設置するという話を  
担当課から内々に聞きました。懇談会の前ですので、この会議の給所会の方で、いろいろ

打ち合わせをやっている中で、要は路上喫煙防止条例の目的に少々触れるところもあるけれども、行政側が責任を持って設置するということであるから、特にこれはもう反対することはないと、反対はしないと。行政懇談会においても、話は持ち出さないということで、会に臨んでおります。その懇談会が、メインテーマというんですか、事前にこういう内容でということで懇談していたんですけど、それが終わってからだったと思いますけども、何かの話の話題のはずみの中で、南口に喫煙所をつくるということを担当課が言っていますよという話が出て、そのときに市長から、そんな話は聞いていないと。喫煙所は設置しないというようなことの発言があったわけですけども、南北に喫煙所がその後、設置されたと。その辺の経緯について、まずお伺いしたいと思います。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 丸山議員のご質問にお答えいたします。

行政懇談会の議事録には、ご指摘の市長の発言はございませんでした。喫煙所設置までの経緯につきましては、路上喫煙等の防止に関する条例の制定、施行にあたりまして、パブリックコメントや路上喫煙対策委員会等での意見をしんしゃくしながら検討した結果、当面は喫煙所の設置はなしとするが、禁止区域内の違反状況等によっては設置するとの結論に至りました。同条例の施行後、平成23年9月の吸い殻投棄の調査では、南口トイレ裏やコンビニの裏に100本を超える吸い殻が投棄されていたことから、路上喫煙禁止区域の違反者の多さを認識し、また、市民からの苦情も寄せられたために、喫煙所設置の必要性を認識いたしました。設置につきましては、日本たばこ産業株式会社より、駅前の市有地に同社の負担で喫煙所を設置するとの提案があったために、無償で設置しております。

結果としましては、設置以降の南口トイレ裏及びコンビニの裏の吸い殻投棄も大幅に減少したことから、十分にその目的を達していると認識しております。

以上、答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 議事録に残っていないのは、今ちょっとお話ししましたように、メインの懇談がおそらく終わっていたころではないかなと思うので、そこをとにかく言うつもりはございませんけども、今言われたようなことで設置したということであれば、それでいいんですけど。

吸い殻がトイレの裏の方にあるとか、そういうことで喫煙場所を設置するというのはいかななものかなと。それであれば、せっかくこの喫煙防止条例をつくったんですから、や

はりそういうことに対しての罰則規定とか、そういうところでやるべきではないかなと、このように思います。その辺のことは、またちょっと関連で、後でも伺いますけども、1つその中で伺いたいのは、J Tから申し出があったということなんですけど、時期を同じくして申し出があったということなんですか。それとも、こちらから要請したと、そういう事実はないんですか。確認しておきます。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） J Tからの申し出でございます。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 念のためですけど、申し出の時期というのはいつですか。いつ、どこへ申し出があったのか、ちょっとお願いします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 時期につきましては、設置が24年2月でございますので、23年中という形で理解しております。そして、生活安全課に申し出があったという形で、庁内で協議させていただいたということでございます。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 23年中に申し出がということですけど、先ほど言いました懇談会の前に生活安全課の方から、そういう話を聞いたのは、7月です。懇談会やったのが7月やったと思いますから、7月ごろなんですけど、その辺はどうなんですか。そのときは、J Tが申し出たんではなかったということですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 23年10月19日に、給与所得者の機関に説明に伺っております。そのときには既にもう申し出があったということでございます。

それと、23年10月の全員協議会で、対策委員会の結果報告をさせていただいたときに、そのような形で喫煙所を設置するという報告はさせていただいております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 申し出があったのは、そうなんですけど、先ほど言いましたように、行政懇談会をやる前に、J Tから話があったという話を聞いているんです。ですから、申し出があった時期は6月か7月ごろではないんですかと、今聞いているんです。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 正式な日時については、把握しておりませんが、23年

10月にはもう既に報告はさせていただいておりますので、それ以前やということを理解しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） その給与所得者の会が聞いているのは、7月ごろに聞いているから、おそらくそのときにあったのではないかなと。誘導はしていないということを今、答弁があったので、それはそれで結構かと思います。

そしたら、次にいきますけれども、市長への手紙のその回答で、市民の健康と喫煙者への便宜を比較すれば、当然、健康の方が大切ですと答えています。と言いながら、要は市民の健康を否定するようなごとく、喫煙所を設置したのはなぜですか。健康が大事やと言いながら、喫煙所をつくったということは。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） ただいまのご質問でございますけれど、喫煙所につきましては、喫煙スペースを指定することによりまして、路上喫煙禁止区域内での喫煙を防止する目的で設置したものでございます。設置場所につきましては、通行者にも最も影響が少なく、また駅から離れすぎない市有地を選んでおり、むしろ市民の健康を考えて設置したものと考えております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 通行者に影響がないと、市民の健康と言うてますけども、回答の中にある文、この手紙を出された方、仮にAさんとしませんか。ここに書いていますように、Aさんは、たばこは吸いません。吸いませんが、1人でもたばこを吸っているときに、私はそのたばこが臭いし、副流煙が出て、受動喫煙の危険性があると言っています。それが今、答弁では、通行者が少ないと、健康上どうのこうのと言われたけど、どうなんですかね。それで、続けて言っていますように、駐輪場を利用するたびに副流煙を吸わされていると。心身とも迷惑をしていると言っているんですけど、このことについては今、部長が答弁された関係で、どのように認識しているんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 市長の手紙をいただいたときに、現場確認をさせていただいております。その結果、駅及び駐輪場の利用者が通行する場所への多量の副流煙が拡散している状況は伺えなかったという形で、このような形で理解しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○ 8 番（丸山敬二君） いや、今の多量の副流煙が出ていないというのは、ちょっとよくわからなかったんですけど、設置する前に調査に行つての話ですか。それとも、調査に行つて、そこやったら副流煙は出ないやろうということやったんですか。それとも、最近調査に行つて、それは確認できていないということなんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 設置する前にも調査しておりますし、その都度、その都度、必要に応じて調査しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○ 8 番（丸山敬二君） 調査というのは、どういう方法でやられているんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 担当職員が目視というんですか、現場を見て、そのような形でしております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○ 8 番（丸山敬二君） 調査というのは、何かこういうふうにしてというのがあるんですけど、ご存知ですか。

その前に聞きますけど、健康増進法というのが、平成 15 年ですか。要は、この喫煙防止条例ができるときに、提案理由の中にもありましたけど、健康増進法に基づいてやるということがあるんですけど、部長はこの健康増進法というのはご存知ですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 詳細までは存じておりませんが、ある程度のことは理解しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○ 8 番（丸山敬二君） そのある程度のというのは、主なものをちょっと教えて下さい。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後 1 時 14 分 休憩）

（午後 1 時 14 分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 申しわけございません。手元に資料がございませんので、お答えすることができません。



○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） この健康増進法というのは、受動喫煙の防止について書かれているんですよね。その中で、今、分煙についてやりなさいとかいろいろ書かれているんですけど、その分煙の効果を判定するのに、いろんなこういうものを使ってやりなさいとか書かれているんですよ。それを、先ほど言われた副流煙が感覚だけではどうかなと聞いておるんですよ。感覚だけでいけば、さっきの手紙にあった方も、通って既にそういうふうに感じているから言うてるんですよ。行政がそれに対してどうもないと言うのであれば、やはりこういうような判定基準とかに基づいてやるべきやと思うんです。もう今、市長もそんなこと言うんやったら、これはこういうふうにしときます。今のことはちょっと言うときですけど、路上喫煙防止条例をするときの上程理由の中に、この健康増進法が施行されて云々と提案理由を説明されているんです。それで、その辺は当然、ご承知のことかなと思ってちょっと伺いました。

その当時の云々というのはどうでもいいんですけど、現状として、先ほどの手紙にあったような内容を確認というか、あそこの横には駐輪場がありまして、そこでもいろんなことを聞いています。確かに、あそこの近くへ行くとにおうんですよ。においもします。吸っているときは、当然、煙があふれてくるんですね。あまり場所も広くないですから、大勢の人が吸うと、通路の方にあふれて吸っていると。そういうことで、ときどきそういう声も聞いています。周りが汚いとか、そういうのも聞いています。実態として、きのう私も行きましたら、雨が降ったあとの水たまりにたばこの吸い殻がいっぱい落ちているんですよ。灰皿の下のところには、たばこのケースだとかいっぱい落ちているんです。この辺の掃除とかはどういうふうにされているんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 業者に委託しておりまして、1日3回、清掃を委託しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 1日に3回もやっていますか。朝に1回ぐらいしか来ていないと聞いていますよ。駐輪場の管理人が掃除していると。その辺はどうなんですか。3回って、何時ごろ行っているんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 時間帯はわかりませんが、委託契約でございますので、

1日3回という形で仕様に基づきまして清掃を行っていただくようお願いしております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 委託しているということは、やはり成果物というんですか、その辺の確認はされていると思うんですけど、今の3回というのは確認されていますか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 特に書類等で確認はしておりませんが、1日3回という形で理解しておりますので、その辺の形で実施していただいていると思っております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君）きのう、私が行ったのは午後4時ごろです。今、言いましたように、水たまりにいっぱい吸い殻が落ちていて、中の灰皿の周りにたばこのケースがある。ときどきひどいときというか、あれによると、自動販売機のジュースをそこで飲んで、トイレの窓のところに置いたり、いろいろなっています。3回もやっているんやったら、1回委託先にチェックして下さい。管理人も煙が出ておるときがあったり、そんなんで掃除に行ったりしとるようですけども。

実際、あそこの管理人室のところにトイレがあるんですけど、そこからおいやとか、多いときには煙が入ってくると、そういうようなこともありますので。当然、風のないときはおそらくあそこまでは来ないと思うんですけど、トイレ側からの風があると、そんなことも起きているということです。先ほどの清掃の件、その辺ちょっとしっかり確認してほしいんです。

それから、回答の中にやむを得ず設置したという言葉が使われておりますけど、このやむを得ずというのは、どういうことに対してやむを得ずということなんでしょうか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 3点目のご質問でございますが、喫煙所を設けなくても、皆様に喫煙禁止区域内におきましては、禁煙を守っていただくのが本来の姿と認識しております。しかしながら、市長への手紙の回答及び第1点目でも先述いたしましたとおり、現実には、路上喫煙等防止条例の施行後も、路上喫煙禁止区域内の違反者が多く、条例の目的が達成できませんでしたので、やむを得ず設置に至ったものでございます。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 条例が守れていないので、喫煙場所をつくったと。やったら条例が守れるという理解をしているんですか。そういうことなんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 喫煙所を設置したことによりまして、そういうポイ捨てとかコンビニ等の裏のごみ、または路上喫煙が減少したという形で理解しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） もう1回言いますけど、ごみは先ほど言いましたように、そこへ人が集まるもんですから、余計落ちとるんですよ。言っておきますね。あんまり何回も言うたら、またくどいくどいというあれになりますから言いませんけど、現実はそのことです。それよりか、先ほど言ったかもしれませんが、この際、罰則を考えるべきではないかなと。こういう安易にこっちを吸ったらいかんようにしているので、いろんなことが起きるからここでは吸ってもええんやとか、そんなんつくるんでなしに、罰則も検討してほしいと。

それから、次のところへいきます。現状では喫煙所を廃止すれば、もとの問題状態に戻る恐れがあるという、もとの問題というのはどういう問題ですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） もとの問題状態とは、喫煙所設置以前に南口のトイレ裏やコンビニ裏を中心に、吸い殻投棄等が非常に多く、路上喫煙禁止区域の違反者が多かった状態を指しております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） それは、先ほどの答えとよう似ているんですけど、トイレ裏にそんなん捨てるのであれば、その裏へ行けないようにすればいいんじゃないんですか。そういうことは考えなかったんですか。それよりか、喫煙所をつくったら片がつくわと思うだったんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 近隣もそういうような形で方法をとっておられますので、本市につきましても、行けへんようなことではなくて、喫煙所を設置することによって、違反者を減らすということを考えます。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） そういうことは問題解決には、私はならんと思うんですけどね。やはり、こういった意見が出ているんですから、その裏に行けないようにするとか、そういうことができない。じゃあ、喫煙所をつくっても、先ほどこういう投書の方もおられる

し、私も現場を見えています。そういうことであれば、やはり撤去するということをするべきやと思うんですけど。撤去なり、どうしても必要やというんやったら、他の場所へ持っていくと。どちらかだと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 設置につきましては、先ほどもお答えいたしましたように、通行者にもっとも影響が少なく、駅から離れすぎない市有地を選んでおりまして、そのことによりまして設置しておりますので、今後も一応、設置はそのままの状態にしておきたいと思っております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 今ある南口の喫煙所は、人の通りが少ないという認識ですか。多い、少ないというのは、どの程度をもって判断されるんですか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 野洲停車場線というんですか、その歩道を通っておられるよりは、あの場所の方が少ないという形を考えております。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） ちょっと納得できませんけど、市有地であれば、あそこでなくても、交番の裏がありますね。今、自転車駐輪場から横というんですか、おりるところ。一時、幼稚園の車をとめたり何かしていますね。あそこのところ、ものすごい広いところがあるじゃないですか。あそこやったら、人はほとんどいてないですよ。どうですか。場所、わかりますか。駐輪場の左側ですよ。交番の裏。販売所のすまいる市があるでしょうに行く方が、車が通るところですよ。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） ちょっと現場を存じ上げておりませんので、現場を確認させていただきます。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） ひとつ、そこだったら多分、大丈夫だと思いますので、ぜひとも現場確認して、そちらへ移設するようなことを検討お願いしておきます。

そしたら、次のとこにいきますけども、この回答の中に、そもそも云々ということが書かれているんですけど、ここからは何か市長が答えてくれるらしいんですが、この「そもそも」以下、ちょっと読んでみますと、「そもそもなぜあの場所に、ある時期、急遽」……。

（「通告していないのに」の声あり）

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後１時２７分 休憩）

（午後１時２７分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

丸山敬二議員。

○８番（丸山敬二君） それでは、次に、「そもそも」以下のところについて質問させていただきます。

「そもそも、なぜあの場所にある時期、急遽、駐輪場が移転したのか。経緯をたどれば、駐輪場の移転、立地も民間マンション建設への配慮のためと推測されます。これまでの密室場当たりのなまちづくり、駅前整備でなく、公開と市民参加により計画的に、安全、快適、機能的なまちづくりを進めています」とありますが、市長への手紙の方はこういうことは聞いていないのに、なぜいきなりこれが出てくるのかを、まずお伺いします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 市長の手紙への回答につきましては、原案は担当課が作成しておりますが、その原案をもとに検討、協議の上、最終的には市長が責任を持って回答しております。特に、ご質問の該当箇所につきましては、多部局にわたる内容であるため、私から責任を持った答弁はできませんので、ご理解をお願いいたしたいと思います。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○８番（丸山敬二君） じゃあ、これは誰に答えてもらったらいんですか。答えないということですか。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後１時２９分 休憩）

（午後１時２９分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

市長。

○市長（山仲善彰君） 丸山議員の喫煙所に関わる市民からの手紙に関するご質問にお答えをいたします。

そもそも、これは通告があったときに、私が答えた方がいいんじゃないかということで、議長に申し入れました。そしたら、部長だという答えが返ってきました。本来、この質問

内容からすると、そもそもから私が言ったか言っていないかまで言っておられます。ですから、私がお答えさせてもらいたいと言ったら、「いやいや、市長じゃない」ということでした。その根拠は何かといいますと、ここに生活安全課が担当と書いているんですけど、これは公表するときに書いているわけですし、お手紙には書いていません。市長にということで、直接来ています。ただ、一般的に見られた方が、どこがまずこの課題はと、取っかかりがわかった方がいいというのでやっています。昔の風習では、前の市長さんは一切自分で基本的には書いておられなかったもので、課が書いていて見ていないということで、もうそこでの処理ということになったんですが、私になってから、今、部長が答えましたように、まずは私に来ます。メールで来たり、私というか秘書課宛てに来たり、市の広報についているはがきで来ます。現課が答えを書いてくれて、部長まで決裁したのを、私が見ています。納得できなければ、来てもらって質問をして、担当者部長にして、もう1回持って帰ってもらう、それで書き直す。それでも納得できなければ、私が手を入れて、これでいいですかということをして、最終的に決裁をします。かなり、手間をかけます。ですから、単なる私見は書いていません。私が書き加えたものでも、1回、組織に返しています。

そういうことで来ているので、でも、最終責任は私ですから、私が答えた方がいいんじゃないかと正式に議長に申し入れました。そしたら、ここに課が書いてあるから部長やと言うんですけど、課が書いたんだったら課長であって、委員会やられるべき質問だと思います。部長でとまるぐらいだったら、市長です。市長への手紙ですから。

まず、今回のご質問については……。

(「そんなこと聞いてへん」の声あり)

○市長(山仲善彰君) いやいや、そういう経過があるから、今、私が答えるということでありまして、部長は、今言いましたように答えられない質問です。まず、そういうことであります。

それと、奇異なこととして、お手紙をとらえて議案質疑。本来ですと、丸山議員が喫煙の制度、喫煙所はどうかというご質問があつてしかるべきなのですが、手紙をとらえておられまして、第三者です。そういう前置きで、ここになぜこれを書きましたかといいますと、これもたばこのことを聞いておられるんですけども、ご承知のように、野洲市のヘルスプロモーション、ほほえみやす21健康プランが空虚に思えますと書いています。このプランは、いろんな人の力を集めてつくっています。市のプランです。そして、市の健康

推進委員さんをはじめ、市民参加の方で実現していただいています。それが、空虚ですと。これは、やはり政策論だと思ったので、この方がおっしゃっている、これがあるから私は、なぜ喫煙所がある、そこから根本的に変えていかない限りは変わりません。

私は、懇談会のときに、つくらないと言ったというのは、ちょっと記憶をもう1回探らないといけません。そもそも路上喫煙の防止はしたいということが、市の課題でした。手が付けられていなかった。私になってから、職員と一緒に考えようじゃないかと。それも、勝手に市がやらないようにというので、当事者参加、関係者、そしてたばこ商組合も入ってもらったと思いますし、最大限参加者を入れて制度設計をしていただきました。当初から完全禁止にして、何も置かない案と、やはりそれでいくと実現性がない。それともう1つ、心配されていたのが、境界です。禁止区域境界に捨てられるという、この3つのことで両論併記でした。私は基本的には否定的だったし、否定的な意見が多かったので、当初は様子を見ようということで喫煙所を置かないことで始まっています。

ただ、実態として心配したとおり、部長が言いましたように、現実がこうだからということで、これは当事者の方の意見もあって、じゃあ置こうということで。これも、全協にも全部お示しをしています。勝手にやっていないつもりです。まずは、当事者に説明ということなので、多分、丸山議員がおっしゃったように、懇談会の前に、給与所得者の会にもお話しに行ったんだろうと思います。全て秘密でやっていません。ここにこうきているわけであって、さっき部長が言いましたように、どちらをとるかで完璧はないので、トイレの裏を塞いだらいいとおっしゃいますけども、そういうもんじゃないです。コンビニの裏、あそこはフェンスがあるんですけども、そこから放ってあったり、網の穴から入れています。よっぽどのことをやらないとだめですということです。

私は、あそこを利用させていただいていました。なぜ急に変わったのかと、私も思ったんですね。仮設も利用して、私がやめてから新しいのができましたので、私が今、新しい施設には竣工式の式典に呼ばれて行ったきり、1回だけです。アサヒビールの土地の購入の経緯を調べました。それと、就任早々に野並議員が、あそこのマンションの土地の買収にあたって、隣の土地を違法にというか、手続き的におかしいんですけども、許可で借りて、開発許可と建築確認許可を取ったと。それによって、とりあえず取っておいてから、後で用途を変えて、容積率、建蔽率を変えて、要らなくなって放出されたと。その時期と重なっています。

ただ、今回ご質問があったのもっと調べたら、まだ奇々怪々でして、あそこの新しい

土地の使用契約は平成19年に結ばれていることになっています。駐輪場という契約です。当然、駐輪場です。ちょうどマンションの、その時期に重なります。ですから、まだ解明できていないんですけども、当時からアサヒビールの土地の経緯で私は職員からかなりレクを受けて、そして自らも調べました。そして、今言いましたように、野並議員の質問でも調べました。ですから、駐輪場が動いたのは、今、空き地になっていますけども、あそこが空き地にならなかつたら、民間マンションの建蔽率、容積率を稼ぐために貸せません。ですから、時期を一にするので、そういうこともあるんじゃないかという、かなり蓋然性が高いことで言いました。

もう1つ言います。今回、調べました。そしたら、給与所得者の会にある時期から市が貸しているんですけども、まだこれは調べきれていないんですけども、お金は固定資産税5%相当分いただいています。200万余りです。それは、市に入っています。その市のお金が、これは解明できていないんですけど、アサヒビールに払われていたんです。これは、きのう初めてわかりました。ですから、私の仮説が一層強まっていると思います。

それともう1つ、今回、奇々怪々なのは、もう再質問いたしませんけれども、いつでしたか、ずっと問題だったので、自治連合会の役員会で、この庁舎の中に喫煙の部屋があると。これについては、庁舎管理は総務を通して私の権限でありますけれども、皆さん方の自主的なことというので、緩やかに自治連合会役員会から正式にいただいた依頼をお伝えしております。丸山議員は、ここまでカリカリ言われるのであれば、そこに対してまず所見を示されるべきだと私は思います。最大限努力して、私は職員がいい場所を選んでくれたから、それでいいだろうと。本当だったら、民間企業とひもつきにならないように、慎重に本当につくるんだったら、市民の税金で設置すべきだと言いました。場所も、さっきご提案がありましたけども、あまり不便だったら利用されないわけです。だから、つかず離れずの場所として、職員なり関係機関が選んでくれた場所ですし、お金はJTが出していますから。私の思いとしては、一応、売る方の専門ではありますが、先ほどの副流煙とか場所についても一定自ら資本を投資するんだったら、一定の判断をしているということで、あまり細かいことはもういい意味で職員に任していますけども、今、丸山議員がおっしゃるほどずさんにはやっていないつもりです。職員が一生懸命、汗かいて、関係者と協議して、ここに至っています。

私の手紙は、かなり丁寧に答えているつもりです。何か順番に懇談会でうそついたみたいなどころから始まっていますけど。ぼけている可能性はありますが、一切秘密はなし、



うそもなしで、この案も一生懸命、皆さんと進めてきております。そういう思いがあつてです。職員がこの手紙が来たときに、ほほえみプランを書く方はよほどの方やと言いました。ここまでのプランを知っている方は。そういうことなので、政策論として私はもっと広いまちづくりを考えていただきたい。そして、今後のまちづくりを考えようと思っておりますから、そのレイアウト、場合によっては駅の改築もあります。そういったことの中で解決するので、申しわけないけど、しばらく待って下さいということでメッセージを送らせていただいたつもりであります。

以上、お答えといたします。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 私が聞いたことと、全然違うことばかりなんですけど。最初の喫煙所の設置の話なんかは、もう市民部長と終わっているんですから、そこまで私は聞いていないです。「そもそも」以下というのは、なぜここでわざわざ出て来たのかというのを聞いておるんであつて。この「そもそも」以下の内容は、今、市長からも話がありましたように、野並議員から1回話があったときに、いろんな全協の中でもそういう中身の話があったと思うんです。そのときに、給与所得者の会がこれにいっちょかみしているようなことは、一言もなかったと思いますし、私も今、市長から聞いて、初めて事実を知りました。

今、市長がおっしゃるように、毎年200万ほど地代を払っております。ある時期に、多分このマンションのころだと思うんですけど、ある時期に契約を結んだら、30万ほどしか来なかったわけです。そこで、えらい安うしてくれるんやなと言うたら、アサヒから請求が来ますというような発言がありました。それを、いや、我々は市とそういう土地の契約をしているんであつて、アサヒから来るのはおかしいやないかと。そのときに、私もそんないきさつは我々には関係ないですから、聞いていませんし、とにかく市の方を経由で払ってくれと言っていました。そこで、市からアサヒにそういうような金が行っているというのは、今日初めて聞きました。

そういうことで、なぜここでこれを見ると、給所会が一緒になってやっているというような言い方ですけども、給所会はその駐輪場を移転するについて、市の方と協定書を結んでいるんですけど、これは市長、ご存知ですか。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 協定書というのは、平成20年に結ばれている協定書ですか。

○ 8 番（丸山敬二君）　そうです。20 年 3 月です。

○市長（山仲善彰君）　はい。あれも今回、私はもう 1 回確認いたしました。変な協定書だと思います。

先ほど、私がそもそもの他言い出したのは、私に質問して下さいというのに、順番に部長を追い込んでいかれたので、私が言ったんですけども、もちろん協定書は知っております。

よろしいですか。反問。

○議長（三和郁子君）　暫時休憩いたします。

（午後 1 時 4 1 分　休憩）

（午後 1 時 4 2 分　再開）

○議長（三和郁子君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ただいま市長より反問の申し出がありましたので、反問を許可いたします。なお、反問は質問議員 1 人につき 2 回までとなっております。

市長。

○市長（山仲善彰君）　2 回というか、回ですから何問じゃなしに、二、三お伺いをいたします。

まずは、先ほどのマンションとの絡みなんですけども、市の中の情報でもぎりぎりのところが解明できていません。まず、丸山議員は過去に何かの機会に私に急いで移転をしないといけないと言われたとおっしゃった覚えが、これは違っていたら違うとおっしゃって下さい。それと、解体費用も持ったってもええという話もあったと。それと、新しい駐輪場に起債をするといいますと、普通だったら起債なんですけども、できないので、役員がいわゆるリスクを負って借金をしたと。この 3 つを私は聞いた覚えがあります。ただ、就任早々の懇談会か何かの場ですから、はっきりしないんですけども、何かにわかに移転しないといけないとおっしゃったこともあって、私は先ほどのと絡んでいると。そして、いろんな過去のアサヒの土地の取り引き、再編成、そして、マンションの、平成 17 年に市に持ってきたけども、すぐに断ったから、後の動きがあったと。これと土地が関係あるんですけど、丸山議員というか、給与所得者の会としては、あそこの移転、もとの建物は、私はそんなに問題なかったと思いますし、私はずっと使わせていただいていたから、会員でもあり、利用者でもあったんですけども、急に変わったと認識をしていますが、変わるきっかけ、そして今の場所に立地をされた経緯を 1 つはお聞きをしたいのが 1 つであ

ります。

それともう1つは、今、協定書のお話があったんですけども、平成19年に契約書が結ばれています。これが、もともとです。土地貸借契約。協定って、普通はおかしいんです。契約書がありながら、協定があります。この契約書の中には、自転車置き場施設のための土地を貸すと、当たり前です。ですから、駅前の一等地が貸せるのは、自転車置き場だからです。給与所得者の会の事務所は入っていません。もしか入っていたら、これは貸せません。こんなことやったら、皆さん貸してほしいとおっしゃいます。ここは、契約書の中では一線を画されている。しかしながら、この平成20年3月17日の協定書、普通は協定書というのはおかしいんですけども、契約書で十分ですから。協定書には、事務室を入れると入っています。現にきのう、契約書を見せてもらいました。そしたら、本拠はあそこになっています。

もう1つ申し上げます。私は竣工式だけにしか行っていません。そのときに、待ち時間に2階へ上がって職員さんか誰かがおっしゃいました。私が上がって行ったら、コピー機とか電話とかがあったんで、これ市長に見てもうたら都合が悪いと誰かがおっしゃいまして、私はそのときは全然認識がなかったんですけども、今回、質問があつていろいろ経緯を調べると、やはり事務所はおかしいという認識があったけれども、協定書が結ばれているからいいんですけども、本来だったら契約書を変えるところまでいかないといけないと私は思っています。これが2点目です。

3点目は、先ほど申し上げた3階にある喫煙所についての、済みませんけど、私は結構肝要な方だと思っていますので、カリカリしませんけども、丸山議員がここまでおっしゃるんだったら、丸山議員のまず見解を明らかにしていただきたいと思います。

以上、ご質問といたします。1回目です。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 3つの、急いでやるということと、役員が借金したということ、もう1つは何でしたか。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後1時47分 休憩）

（午後1時48分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

丸山敬二議員。

○ 8 番（丸山敬二君） 今、市長の反問でありました 3 つの件については、私もあやふやです。わかるのは、急いでくれとかいうて、市側から話はそんな急いでくれとかじゃなくて。結論的にいいますと、何でもかというて、先ほど市長もおっしゃったように、給所会としては、あの建物は別に雨漏りしとるわけでもなく、傷んでおるわけでも何でもないんです。市長は毎日利用していただいていたから、よくご存知です。そのとおりで、ちょうど平成 16、7 年ぐらいですか、駅前の開発といいますか、野洲駅中心市街地整備事業という話が出始めておりまして、その事業を検討するについては、要は駐輪場があそこにあると、やっぱり話も進まんやろうと。それであれば、駐輪場を前もってどこかへ移しましょうという話をしていました。そのときに、担当の方はそのままバックしてもらってもいいですよと。今と同じような面積を確保するためのやつをどこかに言うて下さいということですので、そのまま線路側にセットバックしようかと。こういうことで、それはやっています。それから、それを引っ越して、旧のやつの解体の関係については、話は多分したような記憶もあります。ですけど、それは当然出せるわけないですから、給所会の費用でやっています。

それと、個人が借金云々がありましたけれど、これはいろいろ公的資金も活用できないかといういろいろ模索していたんですけど、結局、公的な資金はなかなか活用できなかった。公的な資金を活用しようとするれば、地方の銀行が保証人にならないといけないと。ということで、名前を言うていいんですかね、滋賀銀行に相談に行きましたら、滋賀銀行はなれるけども、個人に金を貸すのと一緒やと。そのときは、いわゆる任意団体でしたので、要は個人に貸すのと一緒やということであれば、当時の会長でした私に貸すのと一緒やと。ということであれば、そんなごつつい金は、私はないので、そんな危険なことはできないということで、実際はずっと過去から取り引きのある J A さんの方に相談に行きましたら、そういった団体に貸すことは可能やということで、ある条件でもって J A さんからお金を借りて移転したと、こういうことです。

今の市長の 3 つについては、そういうことです。要は、なぜ引っ越ししたのかというのは、そういう野洲駅中心市街地整備事業、これに協調するために先に引っ越ししようと言いましたように、別に建物を壊す理由というのはなかったんですけども、そういうことで先に引っ越ししましょうと。こういうことで引っ越しをしております。

それから、もう 1 つありました事務所の件については、当然、引っ越しするんであれば、それまで中央公民館で部屋を借りておりました。月 5、000 円で、年間 6 万円ですね。

これを払っておりました。それであれば、中央公民館もやはり会がいてたものですから、いろいろ使用上の制約とかあるから、それであれば一緒に事務所も出ましようということ、この協定の中には、市長もおっしゃったように事務所も含んで書いております。ということで、あつちは駐輪場をやるのに必要なものと事務所をつくっております。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後 1 時 5 2 分 休憩）

（午後 1 時 5 4 分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

丸山敬二議員。

○8 番（丸山敬二君） 今、引っ越しした時期はいつやということですけど、いつ言われたんやということですね。その件につきましては、もうあの辺が平成 16 年、もっと前からかもしれませんけど駅前開発やという話がいろいろ出ていたように記憶しています。その中で、先ほど言いました中心市街地の云々で何か検討委員会みたいなものをやっとなんですかね。平成 19 年 5 月の広報に、野洲駅前中心市街地整備計画検討委員募集というのが載っています。平成 19 年ですから、要はこのときに検討委員会を始めた。そういうこともありまして、給所会としては、そういうことで検討していくのであれば、先だって下がってあげましようという話を持って行きました。

ですから、市の方からこれをやるからどいてくれと、そういう話ではなかったです。お互いに温かいムードの中で、よりよくするためにという話の中で、こちらからこういうふうに先に行ってもええよと話を持ちかけております。そこで、そっちの移設の話がどんどん進んでいったのであって、当時、マンションの話が出ておったこととは、我々は全然知りませんですし、関係はしておりません。先ほど言いましたように、市がそれをやるために給所会どいてくれとか、そういうような話ではありませんでした。

それから、3 階の喫煙所の見解についてと、私に求められても、私は答えられません。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8 番（丸山敬二君） 要するに、この何か黒いものがあるような書き方を給所会が、これにひとつ加担しているような書き方をされているので、これはちょっとこういう市の広報でこんなのを書かれると、今言いましたような給与所得者の会としては名誉を傷つけられていると、ということですので、このところは間違いがあったという訂正を求めたいと思いますが。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 先ほど言いましたように、これが名誉毀損に当たるのか、間違いなのかですけども、申し上げたように、アサヒビールの土地を買収するにあたって調べた経緯と開発の経緯。それからすると、ここまで言われるんだったら、まさに連動しているわけで、あそこが空いていなければ貸すことができないし、マンションが建っていません。ですから、そういうことも含めて、これは私はものすごく不透明なことだと思っていますから、駐輪場云々の問題よりは、駅前の透明性、公平を保った手続きという意味で書いています。

もしか、これが問題だということであれば、今おっしゃったように、給所会がどこまで関与しておられたかわかりませんが、こういった物事というのは、うまく押し出しているって、うまく力学を働かすということもありますから、そこを調べた上で給所会なりが、ここは訂正せよとおっしゃるのであれば、必要であれば訂正をいたします。私としては、問題をできるだけ大きく捉まえて、メッセージを送らせていただくつもりにしていました。この一言で、さっき言いましたように健康プランまで空虚とまで言われる。それだったらというところでの回答であります。

それと、喫煙について、丸山議員は賛成しておられるのか、反対しておられるのか。私は自ら吸いませんし、喫煙はできるだけされない方がいいと思っていますが、吸っておられる方の権利は守ると、終始言ってきています。ですから、そういう見解ですけども、庁舎内に部屋があるというのは、これはもう異常な状態です。ですから、そこに対して私はだめだと思っていますが、これはやはり自主的な判断に委ねたいと思っているので、私はあえて踏み込んでいません。でも、基本的にここは議員さんたちのスペースなわけですから、ですから丸山議員の見解は出されてもしかるべきかと思ったので、お尋ねをしたわけですけども、お答えになるかならないかは、これはご随意だと思います。

以上、お答えといたします。

○議長（三和郁子君） 丸山敬二議員。

○8番（丸山敬二君） 何も名誉毀損やとか、そういう堅い言葉を使って行っているんじゃないんです。やはり、社団法人というてんですから、何に基づいて推測されたんかわかりませんが、そういったことがはっきりしないのに、市の広報でそういうのを言われるのは問題やなと私は思っておるので。今、市長もどこを直したらええんやというような発言やったと思うので、その辺、改めて会の方で協議していただいて、ここを変更して

もらうなり、そういうのは後日、文書でもって出させていただくと、こういうふうにさせていただきますたいと思います。

それから、喫煙については、やはりこれは議会として考えてもらわないかんことであって、私もたばこは吸いませんから、ああいうのがあるのは賛成ではございません。当然、先ほど言いました健康増進法に基づいて、あのころからずっと公的な機関はやっていきますので、私もゆくゆくはやるべきではないかなと、このようには思っております。

以上で、趣旨は終わりなんですけど、市長の先ほどの発言であったことについて、伺ってもよろしいでしょうか。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。

（午後 2 時 0 0 分 休憩）

（午後 2 時 0 2 分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

丸山議員。

○8 番（丸山敬二君） それでは、先ほど言いましたように、ここの「そもそも」以下のことについては、給与所得者の会と相談して、また対処したいと思います。

これで、質問を終わります。

○議長（三和郁子君） 通告第 3 号、第 2 番、梶山幾世議員。

○2 番（梶山幾世君） 2 番、梶山幾世でございます。8 月の定例会におきまして、次の 3 件について質問をさせていただきます。

まずはじめに、アベノミクスと地方活性化についてお伺いいたします。

安倍政権発足後の大胆な金融緩和で、株高や円高是正が進み、企業の業績が急速に回復をいたしております。8 月 12 日に発表されました、今年 4 月から 6 月の国内総生産は、年率換算で実質 2.6 % の前期比プラス成長となり、市場予測の年率 3.6 % を下回ったとはいえ、3、4 半期連続のプラス成長でございました。また、投資拡大の機運も出てきております。日本政策投資銀行が 8 月 5 日に発表した設備投資計画調査でも、全産業の 2013 年度国内計画は、前年度実績に比べ 10.3 % 増加いたしております。2012 年度実績は 2.9 % 増で、実質ベースではリーマンショック前の 2007 年度以来、5 年ぶりにプラス圏に浮上したことになります。雇用環境も変化に歯どめがかかり、有効求人倍率も 0.92 倍、完全失業率は 3.9 % と、これもリーマンショック以来の水準に戻ったことになります。

しかし、こうした経済指標などが改善し始めたとしても、中小企業や地方、そして家計が実感できるまでには至っておりません。特に、中小企業については、全国的にも、また本市におきましても産業の重要な基盤であり、地域社会を支え、また重要な役割を担っていることは言うまでもありません。円安を受けて、企業の業績が急回復しているといっても、上場企業中心であり、昨今の厳しい経済状況の中で多くの中小企業が苦難に立っている現状には変わりありません。地方経済の担い手である中、中小零細企業が活気づけば、地方に景気回復の恩恵をもたらすことにもなってまいります。

また、私たちは連立政権の中で大規模地震から国民の命を守る防災・減災ニューディールを進めてまいりました。老朽化が進むインフラを低コストで安全に管理するとともに、予算の重点的な投入によって、地域活性化へと取り組んでおります。命を守る投資が、わが地域でどのような経済効果を生み出し、今後の展開がどうなされていくのかも、今後、注目されるところであります。折しも、来年度予算編成に動き出すときでもあり、わが地域の特性を十分に踏まえて、市民生活に根ざした取り組みと施策の展開を大いに期待して、市長にお伺いいたします。

まず1点目、わがまちの景気の動向、実態をどのように認識しておられるのか、お伺いいたします。

2点目、アベノミクスの進展により、わがまちの財政運営にどのような影響が考えられているのか、お伺いいたします。

3点目、わがまちのインフラ老朽化対策の進捗の中で、経済効果の実感はあるのか、お伺いいたします。

4点目、わがまちの産業振興策、特に中小企業に対する振興及び支援策についてお伺いいたします。

5点目、第3の矢の成長戦略で、焦点を当てていう女性や若者、高齢者活用のわがまちの取り組みについてお伺いいたします。

次に、2点目といたしまして、学校でのがん教育の強化についてお伺いいたします。

がん教育に先進的に取り組みをしている京都府が、がん経験者をがん教育メッセンジャーに任命し、9月から授業に関わることが京都新聞に報道されておりました。日本人の死亡原因で最も多いがんについての知識を広めようと、がん経験者を中学校などに講師として派遣し、病気を機に命と向き合った経験者の真に迫る語りを通じ、がん検診や予防の大切さを訴えていくというものでございます。



文部科学省は、小中高校でがんに関する保健教育を２０１４年度から強化する方針を決めております。現在、教育現場ではがんは保健体育の授業で生活習慣病の予防や喫煙などの害を学ぶ際、他の病気とあわせて紹介される程度で、がん教育とまではっていないのが現状とのことでございます。がん教育は、子どもたちが自身の健康の大切さを学ぶと同時に、病気の人に対する偏見や差別をなくすための重要な機会になってくると思います。文科省は、２０１４年からモデル校を選定して、３年間で先進的な教育を行おうといたしております。

そこで、まず１点。本市においてのがん教育の現状がどのようなのか、お伺いいたします。

２点目、先進事例に学び、医療の専門家やがん経験者を招いての授業、保健体育の教師などに対して、がんへの知識や理解を深める研修等、学校現場での質の高い授業が必要と考えますが、当局の見解をお伺いいたします。

最後に３点目といたしまして、健康マイレージの取り組みについて、お伺いいたします。

健康診断の受診やスポーツ活動への参加などでポイントをためると、特典を利用することができる健康マイレージの取り組みが注目をされております。市民の健診受診率を上げ、健康づくりに励むことで、医療費や介護費の抑制につなげる他、地域コミュニティーや地域経済の活性化など、まちづくりや人づくりにつなげていくことが期待できるユニークな施策でございます。

日本一健康文化都市を掲げる静岡県袋井市では、健康づくり活動をポイント換算し、公共施設利用券と交換することができる健康マイレージ制度を平成１９年度から全国に先駆けて実施され、先進的な事例として健康日本２１、健やか生活習慣国民運動に紹介されておりました。また、政令市の中で最も高齢化率が高い北九州市では、平成２１年に健康マイレージ事業を導入し、４０歳以上の市民が、市が認めた運動教室や健康関連のイベントに参加したり、健康診断を受診すると、景品と交換できるポイントシステムを実施されております。今年度からは、社会福祉協議会に委託して、マイレージの交換となるイベント数を倍以上に増やす取り組みもなされております。

将来の超高齢化社会を見据えた施策の１つとして、全国で広がりつつあります。本市でも、この事業の取り組みを検討してはと考えますが、見解をお伺いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 梶山議員のアベノミクスと地方活性化についてのご質問にお答えをいたします。

まず1点目の本市の景気動向に関するご質問にお答えをいたします。

本市は、スマートフォンを代表とするIT関連の電子部品、デバイスや太陽光発電関連の事業所が立地しており、2008年のリーマンショックで落ち込んだ、これら大手事業所の業績は、スマートフォン販売が好調である状況に加えまして、アベノミクスの大規模な金融政策による円安の効果により、回復の傾向を示しているということにつきましては、報道もされていますし、直接、各事業所の所長等からも聞いております。

一方、中小の事業所に関しましては、一部これらの事業所の関連事業所については別ですけれども、一般的には内需型の事業所が多くありまして、円安による逆に資材、燃料等の価格の高騰による負の影響を受けているといった状態であります。

次に、2点目の本市への財政運営の影響につきまして、お答えをいたします。

当然、景気が回復しますと、法人市民税の増額が期待できますが、普通交付税は75%が相殺されますので、例えば3億増えたら、3億増えるというもんでございませんで、一定の限界があると考えております。また、緊急の経済対策等により、公共事業が増額される見込みはありますけれども、これも言われていますように、来年度予算、一説には公共事業は10%削減という話がありましたが、何か打ち消されておりますけれども、その裏におそらく息切れの心配ということもいわれていまして、まだそのあたり公共事業の増額によるプラスの影響も見通せない状況かなと思っております。

いずれにしましても、現時点ではまだ一部の企業の業績の良さが、私ども市財政に好影響になるというところまでは見極められないと考えております。

3点目の本市におけるインフラ老朽化対策の進捗の中での経済効果の実感につきまして、お答えをいたします。

平成23年度に緊急輸送道路や1級河川に架かる40の橋について、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、計画的かつ予防的な修繕対策を実施してまいっております。今年度から社会資本整備交付金を活用して、3橋の補修に着手することや毎年の橋梁の補修と5年に1回の点検を継続して発注する予定であります。また、上下水道施設では、上下水道管とも市内全域にわたって老朽化が進んでいることから、老朽化の著しい地域から順次、管路の整備を実施してまいります。

このようなことから、市においては橋梁の寿命を延ばすことによるかけ替えに要するコ

ストの縮減や、水道事業では、有収率の向上や不明水率の減少による経費の削減効果があります。一方、公共事業発注に伴う地域経済への波及も、これらによって生じると考えております。

4点目のわがまちの産業振興策、特に中小企業に対する振興及び支援策についてお答えをいたします。

個々の事業者に対しましては、市の小口簡易資金や県セーフティネットの融資制度の利用に伴い発生する支払利子について、その一部を負担する利子補給制度を実施し、中小企業事業者の経営基盤の強化等を支援しております。

また、市では平成23年度に商工業振興指針を策定し、これに基づき商工業の活性化を進めているところでありますが、アベノミクスの影響によって、特に施策面で充実したものはありません。

今後につきましては、既存商工業者の活性化として、中小企業の経営力が向上し、自社の生産高が高まるようにマネジメントとマーケティングの習得強化、また県制度をうまく活用するよう情報発信を行っていけるよう取り組んでまいります。さらに、既存商工業者同士の連携や交流を深めるために、商工会への加入促進、商工会内での企業マッチング等を行い、ビジネスチャンスが増えるような取り組みを支援していきたいと考えております。

5点目の第3の矢の成長戦略で焦点を当てている女性や若者、高齢者活用のわがまちの取り組みについてのご質問にお答えをいたします。

成長戦略の日本産業再興プランに掲げられている雇用制度改革、人材力の強化における野洲市の取り組みといたしましては、まず、女性につきましては、こども園や学童保育所の設置により、就労の機会がより広く得られるよう支援をしております。

また、若者については、ヤングジョブセンター滋賀、これは草津市内にありますが、ここが行う若年者支援プロジェクトや各種相談、セミナー、講習会、就職面接会、説明会などを利用できるよう情報提供を行っております。

最後に、高齢者につきましては、シルバー人材センターの活用やハローワークとの連携により、就業機会の確保に努めております。そのため、シルバー人材センターへも補助を行い、運営をしているところであります。なお、シルバー人材センターへの補助に関しましては、先に国の事業仕分けにより、補助金が削減されたままですが、市としては、その削減分を補ったというか、もともと半々であったのですが、国が減っても、市の分は減らさないという形で、まだ積極策を講じております。本来、前の政権のときに減らされてお

るので、政権が変わったら、そこはもう1回戻していただきたいと思うんですが、まだきめ細やかさが足りないということが逆に心配ですし、既にご案内していますように、今年4年目になります、ものづくりの支援につきましても、逆に今年度からお金がついているけど、使えないという、逆行した状態になっておりますので、このあたりもできるだけきめ細かな政府の施策を期待したいと考えておるところであります。

以上、ご質問に対するご答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 梶山議員の学校でのがん教育について、お答えをさせていただきます。

まず、本市におきましては、がんの特化した教育は行っておりませんが、議員ご指摘のとおり、小学校の保健、中学校の保健体育の授業で、生活習慣病の予防や喫煙の害などを学習する際に、他の疾病とあわせて指導をしております。

次に、がんは日本人の死亡原因の1位であり、2人に1人がかかることから、がんについての教育は重要な課題であると認識をしております。しかしながら、実際に学校でがん教育を行うにあたっては、子どもたちの発達段階に応じて、具体的に何をどう教えていくのかという教育内容や教材の開発、また、教育課程への位置づけなどについて十分な検討が必要であると思います。今後、文科省で行われておりますがん教育に関する検討委員会における議論の推移や2014年から始まります、選定されたモデル校における実践等を踏まえながら、本市におけるがん教育のあり方について検討をしてみたいと考えております。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（井狩重則君） それでは、梶山議員の3点目の健康マイレージの取り組みについて、お答えをいたします。

本市では、市民一人ひとりが主体的に生活習慣の改善や健康づくりを実践し、健康で生き生きと暮らせるまちづくりを目指した、野洲市ほほえみやす21健康プランを策定し、当計画に基づきまして取り組みを進めているところでございます。市内の健康づくりに関わる医師会、薬剤師会、健康推進連絡協議会、また、商工会、JAおうみ富士等関係団体、機関の代表者で構成する推進委員会と自治会推薦の委員で構成する学区ごとの健康を考える会が主な推進体制となっております。推進委員会では、プラン推進の進捗管理とあわせ

て、特に今年度は、プランの中間評価の年度となり、現在、この作業を進めているところでございます。

また、健康を考える会では、健診の受診勧奨やウォーキングマップづくり、旬の地元産野菜を使った料理教室など、地域の特色を生かした健康づくりの取り組みが市民主体で進みつつあります。

なお、特定健診、がん検診などは、身近で気軽に受けていただけるよう、医療機関との連携を図りながら、定期的な検診の受診勧奨や個別相談などを行い、生活習慣改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう、そうした支援も並行して展開しております。

今回、ご提案の健康マイレージにつきましては、健康な生活習慣の定着を図るための方法として、1つのきっかけになると考えておりますが、ポイントの対象となる内容や継続性、それから、費用対効果の検証など、市で取り組むには十分な準備が必要であると考えております。

先に申し上げました推進委員会では、今年度、市民の運動に対する受けとめ方や継続的に実施をいたしております内容等について、健康を考える会委員や関係団体の協力を得て、運動を含む生活習慣の定着に係る実態調査や課題分析等を実施する予定でございます。また、市内には運動スポーツ施設が多数あり、市民が健康づくりを意識した施設利用につながるような仕組みづくりや体制整備についても検討することになっております。

ご提案の制度につきましては、この推進委員会での議論を踏まえまして検討してまいりたいと考えております。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 梶山幾世議員。

○2番（梶山幾世君） それでは、再質問をさせていただきたいと思います。

まず、1点目のアベノミクスと地方活性化について。今、市長の方から現状をお聞きさせていただいて、あまり活性化につながっていないと。各企業でいい部分とマイナス部分とあるということで、それは今の状況では当然かと私も感じおります。

私も大手の企業を訪問することはあまりないんですけれども、中小零細企業の方、商工会の人たちもそうですけど、現状を聞かせていただく機会がありますが、やはり、今、市長がいろいろと商工会の方たちと話していきたいということがあったかと思うんですけど、市長から直接、個々に聞く機会は意外と少ないという、いろんな商工会とか工業会とか大

手の企業には訪問されてはいらっしゃると思うんですけど、当初、市長が就任されたときに、選挙のときにお伺いされていた方々には、一部といえば一部なんですけども、非常に零細企業の中で今、どんな厳しさなのかということを市長に知っていただきたい。それでは、市長室に個々に行って下さいというんですけど、そこまではちょっと時間の関係とか、市長のご都合もあるだろうからということで、そういう場合、ちょっとどうですかという投げかけ、市長に来てもらおうと、心配してくれてはるんやなど。そして、またそうして来てくださると、また市長室に行って、また聞いてもらおうかなと。そういう思いになるので、そういうこともしてほしいという声が一部の声ですけどもありますが、その辺の時間があるのかどうか。そういった方々への実態調査、どういうふうに考えていらっしゃるのか。

今の利子補給はずっと野洲町時代から補給されて、使われている方は非常に喜んでおられますが、それも目いっぱい使ってあっぱあっぱして、いろんなところから借金だらけで大変という方もあります。そこに景気が悪くなって、ますます倒産に追い込まれているという、そういう話も聞かせていただく中で、少しでもそういった状況を市長に話す機会があれば、また希望を持っていけるという、そういうこともおっしゃってありました。

また今、市街化の拡大によって期待される場所ですけども、そういった進捗もなかなか思うようにいっていない現状で、早く進むと我々の仕事も入ってくるのでと。そういうことも、民間開発とはいえ、行政はどのように捉えているのか。何か行政の動きが鈍いんじゃないか、そういうことも直接聞くんですけども、こういった民間関係は、私もあまりわかりませんので、そういったことは直接、行政の取り組みがどういう状況なのかということは、直接聞いていただきたい。なかなか議員としても、訪問して聞かせてもらっても、答えられないことが多くて、非常に困る場合があるんですけども、そういった企業の人たちが苦勞して、今、一生懸命生き残りをかけておられるという事実を、市長、直接聞いていただければという思いがあるんですけど、その点1点、お伺いさせていただきたいと思います。

それから、がん教育なんですけども、今、教育長のお話だと、文科省がこの3年間かけてモデル校を実施して、取り組む状況を見てから考えたいということでありましたけれども、実際、やっぱり予防というのは早い方がいいと思うんですね。今、野洲市内でもがんが転移して苦しんでいらっしゃる方も何人か知っているんですけども、子どもさんもお母さんの看病をしながら、本当に大変な思いをされております。そういった状況を見ると、

やはり小学校高学年、中学校時代からそういったがん患者、2分の1はがんで亡くなっていくというがん患者の苦しみとか、乗り越えた体験とか、どうすればいいとか、そういった体験を聞かせてあげるということは、非常に大事なことはないかと思います。たまたま京都府がそういうことをしているということが、京都新聞に出て、またインターネットでも報道されておりますので、できればそういったモデル校がされる前に、そういう先進事業を学んでいただいて、それからわが学校はどういうふうに子どもたちに訴えていこうかと。待つんではなくて、積極的に取り組んでいく必要があるんじゃないかと考えますけども、もう1回その見解をお聞きしたいと思います。

健康の増進のために健康マイレージ事業と、なかなか聞き慣れない事業なんですけど、こういったポイント制度、例えば健康診断を受診すると、そういう点数が付くとか、そういうスポーツ教室に通うと付くとか、さまざまな取り組みが、今、17市町で取り組まれていることが、これは全国紙、朝日、読売、毎日、日経、産経に紹介された記事ということで、インターネットから出したものなんですけれども、17市町が取り組まれておりまして、非常にユニークな状況で、この制度を利用しているところが、感想として、とても通うことが楽しみになったと。今まで何となく義務的で行かなければいけないなと思って行っていたところが、行くことが楽しみになり、またそのポイントがたまると、図書カードに替えてもらったり、また景品をいただいたり、そういう楽しみがあって、健康づくりに弾みがついたという感想の声も出ておりましたので、今そういう健康を考える会ですか、そういった方ともしっかり協議し、検討していきたいということですので、どのような内容にすればいいかというのは、これから野洲市に合った内容でいけばいいと思いますので、ぜひ前向きに捉えていただければと思っております。これは、答弁は要りませんので、市長の答弁と教育長の答弁とを再度お願いしたいと思います。

以上です。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 梶山議員のアベノミクスというよりは、産業振興に係る再質問にお答えをいたします。

ご提案のとおりで、私はいろいろな課題でさまざまな方と直接、お出合いをしておりますので、大賛成ですので、幾らでも。時間がないというか、時間をつくってでもお出合いをさせていただきます。

ただ、あまり個人というか、市長として個人で出かけるよりは、それも大事ですけども、

それよりは、やはり仕組みとしてあった方がいいので、これが商工業の振興指針を、当事者が入っていただけてつくったわけでして、そのねらいは、個人の首長の人気取りみたいに事業所を訪問するんじゃないしに、指針とかそういった枠の中で職員、組織がいろんな接点があった方がいいということですが、まだあんまり機能していない部分もありますので、それを機能させるとともに、補うというよりは、いろんなチャンネルの1つとして、できるだけいろんな多様な事業者の方とお出合いをさせていただきたいなと思っていますので、またそれは工夫をさせていただきたいと思っております。全く大賛成ですので、取り組ませていただきます。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） がん教育につきましては、がんに対する知識とか、あるいはがんを予防することに関する知識とか、薬あるいは放射能に関する問題とか、検診に関するいろんな知識等々、いろんな内容が考えられると思います。このことにつきましては、やはり専門的な方、あるいはお医者様からいろいろとご指導をいただくことが一番いいんじゃないかなと、そんなふうに私は考えておまして、ゲストティーチャーとして教育課程の中に位置づけられるなら、積極的に取り組んでいきたいなと考えております。

また、梶山議員のおっしゃってくださっております、がん患者を学校に招いてという取り組みも京都でやっておられるようでございますので、できるだけ情報を収集しながら、野洲市で取り入れられることであれば、ぜひ取り入れて積極的に展開をしていきたいなと考えているところです。

以上でございます。

○議長（三和郁子君） 梶山幾世議員。

○2番（梶山幾世君） 今、お答えしていただきまして、ぜひ市長、私は人気取りのために行っていただきたいという思いは全くございませんので、企業に少しでも希望をもっていただけるためにという。やはり、市長が顔を出していただくと非常に元気が出ると捉えておられますので、そういう意味合いで申しましたので、こらえていただきたいと思いません。

今、がん患者とおっしゃいましたけど、がんを乗り越えた、がん患者として乗り越えた体験ですね。やはり今、がんと戦っていらっしゃる方を訪問するんですけど、放射線治療とかいうのは、非常に後がしんどいという、さまざまな思いがあるそうですね。そういう思いをやっぱりさせたくないという患者さんは多いですので、本当にがんになれば大変だ



ということ、そのためには十分に健康に、予防が大事だということをやはり小学校、中学校、早いうちから知っていただきたい、そういう思いで、今回質問させていただきました。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（三和郁子君） 暫時休憩いたします。再開を、午後２時５５分といたします。

（午後２時３５分 休憩）

（午後２時５５分 再開）

○議長（三和郁子君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告第４号、第１８番、内田聡史議員。

○１８番（内田聡史君） １８番、内田聡史です。今回は、災害時におけるＩＣＴの活用についてお伺いをします。

昨年６月議会に提案をさせていただきました、携帯電話の緊急速報エリアメールは、その後すぐに導入をしていただきました。携帯電話は最も普及しているＩＣＴ機器であり、多くの人が持ち歩いていることから、災害時にもこの活用が期待されているところであります。災害時には、電話やメールがつながりにくくなるため、その機能を十分に生かすことができないかもしれませんが、電話以外の使い方で情報収集するにあたって、重要なアイテムであると考えます。

平成２３年３月に発生した東日本大震災以降、国内では大規模災害に備えた議論が活発化しています。総務省は、平成２３年４月より大規模災害等緊急事態における通信確保のあり方に関する検討会を開催し、同年１１月に取りまとめ、それらに基づき、国、自治体、電気通信事業者が今後取り組むべき事項が示されたところであります。

災害発生時における基礎自治体の情報発信は、非常に重要であり、言うまでもなく必要不可欠なものであります。本市において、災害が発生した場合の情報発信等は、防災行政無線や広報車で行われるとしています。さらには、市のホームページにおいても必要に応じ、情報発信がなされると思いますが、まず最初に災害時に市のホームページをどのように活用されるかお伺いをいたします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 内田議員の一般質問にお答えいたします。

本年第２回定例会の内田議員の一般質問でもお答えいたしましたとおり、災害時のホームページ情報など、新たな手法についてはあくまでも補完的な有効性がありますが、現段

階といたしましては、直接的かつ効果的な情報伝達手段である、市の防災行政無線や広報などにより、市民に正確な情報伝達を行います。

以上、答弁いたします。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○１８番（内田聡史君） 先の議会でも同様の答えをいただきました。確かに、ホームページやＳＮＳとインターネットによる情報発信は、補完的なものであると思います。先の東日本大震災において、震災発生後の情報収集や伝達にＳＮＳやインターネットを使ったソーシャルメディアが大きな役割を果たしました。しかし、それと同時に情報の信頼性の担保や、それに伴う情報弱者の発生など、また課題を残したのも事実であります。さらに、東日本大震災のときには、多くの人たちが自治体等のホームページにアクセスをし、サーバーがダウンした状況になりました。これは、情報を求める住民が非常に多くアクセスをした結果であり、自治体のホームページにはそれらの情報が載っているという、近隣住民さん、そして自治体が流す正しい情報を手に入れたいというあらわれであると思いますので、補完的なものであるにしても、災害時の活用をしっかりと想定していただきたいと思います。

次に、本市では災害が発生した場合、今、答弁いただきましたように、まず、防災無線、広報車による情報発信としていますが、被災者や避難者は常に新たな情報や現状を求めることが予想されます。また、その災害が台風によるものなのか、大地震か、また竜巻なのか、それとも他国からの攻撃によるもののかなど考えると切りがありません。また、そのときには電話は使えるのか、電気は使えるか、通信施設は大丈夫なのかと考えると、これもまた切りがありませんが、先ほども申しましたように、被災者、避難者は新たな情報を常に求めています。このことから、市内の指定されている避難所施設のインターネットのアクセス環境の整備状況をお伺いします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 指定避難所につきましては、現在３８カ所ございますが、野洲川河川公園等の屋外スペースを除く各施設で、インターネットアクセス環境は整っております。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○１８番（内田聡史君） 外以外は全部、３８カ所とも整っているということなんですけど、ちなみにお伺いしますが、市内の消防団の詰め所のインターネットアクセス環境の整

備はどのようになっているのでしょうか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 市消防団でのインターネットアクセス環境につきましては、整備はできておりませんが、消防団詰め所には、デジタル対応のテレビがございます。また、気象情報等の状況把握を、そのテレビで行っております。また、市の備品である携帯電話も配備しておりまして、緊急連絡等を可能にしております。

以上、答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○18番（内田聡史君） 消防団の詰め所は、インターネット環境の整備がどこもできていなくて、テレビと普通の携帯電話があるということなんですけど、災害時には特に電話回線が混み合うことは、これまでも明らかになっており、最近ではインターネット回線を利用するタイプが増えてきております。インターネット回線を整備するところが増えてきておりますので、今後の検討課題としていただければと思っています。

次に、災害時にホームページを補完的な位置づけで使用されますが、日本国内におけるスマートフォンの普及率は25%と、わずか3年で19%も上昇しています。しかしながら、依然としてフィーチャーフォン、今でいうガラパゴス携帯とかガラケーとかいわれている、パタパタっとやるやつなんですけれども、こういった携帯電話はもうほとんどの方が持っておられる世の中になってきました。冒頭にも言いましたが、今や携帯電話は最も普及しているICT機器であります。今や、財布を忘れても携帯さえあれば、どうにかなる時代に差しかかっています。本市においても、その普及率を理解し、緊急エリアメール、不審者情報メールなどを導入されたと思います。

しかしながら、現在の市のホームページは、これら最も普及している機器への対応がなされていません。通常のホームページは、パソコンで見やすいように、そして、キーボードとマウスで操作しやすいように作成されています。それに対して、携帯ホームページは、携帯電話で見やすいように、携帯電話機などで操作しやすいように作成しているものがありますが、本市のホームページ、これを携帯ホームページ、いわゆる携帯電話向きに携帯電話で最も見やすいようにつくられた携帯ホームページ仕様も導入すべきと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） スマートフォンなど携帯端末の普及は著しいものがあり、こ

れに対応した市ホームページ仕様変更の導入については、その必要性は高いと考えております。今後、市ホームページ全体の充実を図る中で、あわせて検討してまいりたいと考えております。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○18番（内田聡史君） ホームページの充実を図るときに一緒に検討していくということです。前回の質問でも冨田部長にお答えいただきましたように、フェイスブックやツイッター、そういったものに移行するよりも、まずホームページを充実させたいという答弁もありましたので、時期はいつになるかわかりませんが、ホームページ改修時期にこういった携帯でも見られるような対応のホームページをつくっていただければと思っています。

次に、前回の議会においてSNSの有効性を質問させていただきました。ICT、防災行政無線には、それぞれの有意性があります。例えば、ICTには情報提供できるエリア、情報量が優位であり、一方、防災行政無線では緊急事態時での即時性が優位であります。この2つを合わせることで、災害時に一層の効果を発揮すると思いますが、見解をお伺いします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） ソーシャルネットワーキングサービス、SNSと同様に、情報通信技術、ICTも市ホームページを補完するものとして、その有効性は認識しております。しかし、情報発信を取り巻く環境の変化や運用面での課題も懸念されます。十分に見極める必要があると考えております。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○18番（内田聡史君） 3カ月前と一緒にの答弁であります。災害時におけるICTのSNSやツイッター、フェイスブック、そういった重要性もしっかりと認識をしていただければと思います。

次に、防災の日である毎月1日に計画をされていた防災訓練は、台風の影響で中止をされましたが、毎年行われている防災訓練や自主防災組織や自治会などでの防災訓練時にICT機能を利用した訓練を入れていくべきであると思いますが、お伺いをいたします。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 自主防災組織や自治会の防災訓練につきましては、最新の情報機器の活用にまでは至っておりませんが、昨年実施いたしました防災訓練では、NTT

の協力によりまして、訓練会場に携帯電話を持ち込み、災害現場と災害対策本部の間で画像転送等の情報伝達の収集訓練を行っております。また、本年は中止になりましたが、本年度もその訓練を行う予定でございました。

以上、答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○18番（内田聡史君） 前回の訓練といえば、三上小学校でやったやつです。私も行きましたが、ちょっと見られていませんでした。

特に、災害時は混乱します。その中で、情報収集という部分においては、画像等も送れて、災害対策本部に確かな情報を送れる、こういったＩＣＴ機器を利用した訓練、こういったものもまた検討していただければと思います。

次に、皆さんも一度は見たことがあると思いますが、ヤフージャパン、これはヤフー株式会社が運営するポータルサイトであります。アメリカのヤフーの日本版であり、この会社のホームページは、１日平均１９億アクセスを誇り、日本における検索エンジンとしては過半数のシェアを獲得しているそうであります。このヤフージャパンは、東日本大震災発生直後から緊急的な取り組みを即座に実施し、被災地の救助活動、救援活動から全国的な災害関連情報の提供などを行ってきました。そのヤフージャパンは、自治体から発せられる避難勧告、避難指示や、自治体によって指定される避難所情報、その他さまざまな災害に関する情報に住民の方がいつでも、どこでもアクセスできるよう、ヤフージャパンにて集約、整理して提供するとともに、災害時に自治体の運営するウェブサイトがアクセス集中により閲覧しづらい状況になることを防止することを目的とし、災害協定を結ぶ取り組みをしています。協定を結ぶことにより、災害時にアクセスが集中し、サイトを閲覧しにくい状況が発生したときに、キャッシュサイトを立ち上げ、アクセス負荷軽減を図ってくれます。

さらに、避難所情報、さらには安否確認において、避難所ごとに作成した名簿を載せることにより、インターネット上で検索できるそうであります。特に、課題のありました災害発生後、各避難所において、この方がここに無事に避難されているという情報を上げたときに、それをインターネット上で市がホームページに上げたときに、なかなか検索してもヒットしてこないというのが、このヤフーの名簿に載せることによりまして、何々市で災害があった、避難された。その避難された方の名前を載せることによって、誰々がどこに避難されているという検索ができるそうであります。

こういったことから、ヤフージャパンと災害協定を結ぶ自治体が増えてきております。本市においても検討すべきだと考えますが、見解を伺います。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 広告媒体であります民間企業との災害協定につきましては、特定の民間企業である問題点や個人情報の漏洩等の問題などの課題もございます。今後、情報通信環境を注視し、検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 内田聡史議員。

○18番（内田聡史君） 確かに民間でありますし、今、ヤフージャパンだけ出しましたが、グーグルでも他の会社もあるかどうか、私はちょっと知りませんが、今、言われた個人情報の漏洩の危険性も確かにあるかとは思いますが、全国でも多くの自治体がかような協定を結んでおられます。確かに今言われたように、そういう懸念もクリアした上での災害締結だと思います。関西では、奈良と滋賀県で協定を結ばれているところが全くありません。民間と提携するので費用がかかるとは思われますが、この締結は無料でやっているそうであります。また、あとICT関連事業者がどのようにやっているのか、また調べていただきまして、できるだけ民間の活力、民間のこういったものを活用しながら、防災に、また減災に備えていただければと思います。

以上で、質問を終わります。

○議長（三和郁子君） 次に、通告第5号、第9番、西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 第9番、西本俊吉でございます。私は、今回の一般質問におきまして、不慣れな一問一答という形をとりました。多少うまくいかない部分が出るかもしれませんが、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

9月1日、先ほど内田議員が言われましたように、防災訓練が台風等の影響で中止になりました。このように、市の方ではいろいろ総合防災訓練から各自治会での避難訓練、これらを含めてやられたわけですが、同様に学校教育の機関においてどのように防災教育がなされているのか。また、それに基づく避難訓練等が実施されているか、その辺全般についてお聞きしてまいりたいと思ひます。

災害は忘れたころにやってくる。来てほしくないものも、本当に先の見えない昨今の状況です。今から2年半前のあの3.11の東日本の大震災。本当に多くの人命が失われました。また、その多くは津波によるものだったと思ひますが、やはりそこでは教育

を受けていた子どもたちも多く亡くなっております。そういうところから、まずは命を守る、その術を教育関係機関においてどのように野洲市の学校等で取り組んでおられるかお聞きします。

私がたまたまというんですか、幸いこの7月に文教常任委員会の研修におきまして、兵庫県の神戸市にあります未来防災センター、さらにはこのテーマを知りたいということで、兵庫県庁に赴きまして、兵庫県の教育委員会の防災担当者の方から、教育現場で災害から命を守るための教育指導をどのようにされているかお伺いしてまいりました。そういう意味におきまして、各市町村の実例じゃなくて、県教委の指導されている内容を聞いてきたので、私がここで野洲市の教育現場の実態というものを知った上で、さらに命を守るためのなにを少しでも高めていただければという、そういう思いで質問を展開してまいります。

まず、1問目。火災、風水害、地震、その他ありますけれども、多くの児童、生徒を預かる学校施設、ここで今現在での災害対策というものは、どのような状態になっているか。教育委員会等では十分論議されている部分かもわかりませんが、我々市議会の方で学校現場のことを取り上げるケースはあまりないんですけれども、一応、実状を知りたいという思いで質問をさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） それでは、西本議員の学校での災害予防対策についてお答えをさせていただきます。

まずはじめに、現在のところですが、学校施設の耐震対策ですけれども、篠原小学校の管理棟、現在建築中でございますが、それを除きまして、全て耐震対策は完了しております。その上にあって、答弁を申し上げたいと思いますが、各学校では火災や地震などの不測の事態が生じた場合に備えまして、このような学校防災マニュアルを策定しております。この学校防災マニュアルには、災害等が発生した場合、早急に現地対策本部を設置して、児童、生徒の避難場所の確保や被災状況の調査、安否確認を行い、迅速かつ組織的に行動しながら、児童、生徒の命を守ることを最優先にしております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 学校では、今お示しいただいたように、防災マニュアルづくり、そしてそれに基づいていろいろ職員等において協議をされているということになります。私も、たまたま今、教育長がお示しいただいた、同じ学校のものを手元に持ってきており

ます。これは、たまたまということなんですけれども、その中にいろいろ具体的に最後の方では危機管理マニュアルということで、ケースを捉まえての対応の仕方を指導されているように思います。

ただ、私がどうしても気になりますのが、訓練等においてどうしてもメインになってくるといえるんですか、ご覧いただいたらわかるんですけれども、第1章のところでも、火災その他ということの表現になっているんですね。確かに、火災も怖いですが、でも、この第1条の規定とかそういうところ、総合的なものであれば、火災その他という言い方よりも、むしろ今、児童、生徒の命を守るためには、地震というものが一番怖いかなと思うんですけれども、そういう意味において、これは毎年巻き返しをされていると思うんですけれども、どこにも年度的なものが入っておりません。これは、十分職員会議等で検討されて、それぞれ出されているものだと思いますけれども、限られた教職員はじめ先生方で、多くの児童を守るというのは大変だと思います。でも、そういうところから、あらゆるものを想定して守る、そういうマニュアルに持っていくべきでないかなと。

私が、先ほど申し上げました兵庫の教育委員会に行った折には、県の教育委員会が各市町村に対して配付しております、指導しております兵庫県としての、いわゆる防災マニュアル、こういうものが既に早くから出されております。さらには、私はちょっと実態がわからんのですけれども、野洲市において子どもたちに向けた、防災マニュアルに基づく副読本的なものが実際のところ、現場で子どもたちに渡っているのかどうかということ。これは、事前に通告できていないかもわかりませんが、大いに関連性がありますので、こういうものはどうであるか、ちょっとまた後でも結構ですので、お答えいただきたいと。こういうものに基づいて、子どもたちはそれぞれ日常、防災に心がけてということであれば、それは1つの大きな成果であろうかと思います。もし、ないとするならば、当然やっぱりケース・バイ・ケース、これは何冊も持ってきましたのは、入学した当時の子どもから小学校中学年、高学年、さらには中学生に向けたいろいろな学年層に分けて副読本がこうして出ているわけですね。これは、兵庫県内の子どもたちはみんな目を通すことができます。

そういうことで、これは県教委が発行しているものですから、野洲市でつくれというわけにはいかんと思いますけれども、実際こういうのは滋賀県の学校施設等で活用されているのか、今まで校長をお務めになったことも当然おありですから、その辺についてももしご認識がありましたら、お答えいただきたいと思います。



○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 今お示しをいただきました防災の副読本等につきましては、野洲市におきまして、そういったものはつくっておりませんし、現在、子どもの手元には渡してはおりません。ただ、今のような副読本とか、全国各地からいろんなものが出ておりますので、そういったものを参考にしながら、例えば、地震のときはこのように避難しましょうとか、火災のときはこんなふうにしましょうとか、あるいは登下校中に地震が起こった場合は、こんなふうにしましょうといったようなものを、各学校で作成しまして、それを教室に張り出しているといったような取り組みはしております。

以上です。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） こういう副読本的なものを出していることはないけれども、市販されているものとか、いろいろなものを用いて、それなりの対応はしているということです。でも、やっぱりそれぞれきちとしたもの、子どもたちがいつでも眺められる状態に、こういうものを置いておくことも1つの防災教育の効果として出てくるかと思います。また、これを家庭に持って帰って、お父さん、お母さん方にお話しする、最後の方でちょっと言おうと思ったんですけど、そういうところに役立つこともできます。そういう意味におきまして、私が現在持っています、これらにつきましては、この後、議会事務局の図書室に置いて、ひとつ我々も勉強しますので、またよければご一覧いただいて、またご活用いただければと思います。

次に、基本的な防災マニュアル等につきましては、それでいいんですけれども、実際、年に何回か各学校で避難訓練という形のはされております。これら、市内で回数とかきちっと均一になっているか、なってへんかわかりませんが、大体どの程度の避難訓練の取り組みがなされているのか、一度お伺いしておきたいと思います。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 避難訓練の内容とか回数についてのお尋ねでございますが、どの学校でも原則、火災と地震を想定した避難訓練を全校体制で年1回は実施しております。その内容といたしましては、火災の場合は、避難方法や避難経路、それから避難場所の確認に重点を置いております。地震の場合は、机の下にもぐって、身の安全を守るための行動様式を確認しております。

また、その他にも湖南広域消防局からの指導や助言を受け、消火器を用いた初期消火訓

練や起震車に乗って実際の揺れを体感したり、災害発生時に自分の身は自分で守ることを目的とした「9 years plan」のもと、煙が充満した火災現場からの避難方法など、さまざまな体験を通して児童、生徒の防災意識を高めているところでございます。

以上です。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） それで、今、全校を対象としたものは年に1度ということで、実際、お聞きしました。実際、想定での訓練を行われる段階で、その行われる時間とそういうものに工夫がなされているかどうかということです。私が聞きたいのは、授業時間中に避難しましょうというのと、それから、お昼休みの長休みの間に起こった場合、子どもたちは散らばっていますね。そういう場合に起こった場合と、または、登下校している途中も含めて、学校がどこまで責任があるかないかの問題は別として、子どもたちの安全を守るという1つの機関としては、学校がどこまでその辺を指導されているか、その辺もあわせて伺いたいと思います。今現在、思っておられる範囲で、ひとつお答えいただきたいと思います。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 先ほど、地震とか火災の避難訓練の件でございますが、最低年1回以上は行っているということですので、1回限りではございません。

それから、その避難訓練も、今、議員がおっしゃったとおり、休み時間に行う場合もございますし、あるいは授業中に行う場合もございます。そういった創意工夫をしながら、避難訓練を行っているところですけども、地震に限って申し上げますと、地震は子どもの休憩時間とか、あるいは放課後、また登下校の最中に起こる可能性も非常に大きいものがございます。そこで、これらの時間帯や活動ごとに、児童、生徒や教職員の基本対応フローを作成しておりまして、先ほどお見せをしましたマニュアルの中にも記載をしております。訓練が終了した後でございますが、その後の学級活動の時間に、この基本対応フローに従いながら、休憩時間とか、あるいは放課後、登下校の時間、あるいは校外学習に出ているとき等々の避難方法などについて、口頭ですけども、指導をしております。

以上でございます。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 今、教育長の答弁では、授業中に限らず、いわば休憩時間に起こるということも想定した範囲内でやっている。これは、各学校で全体的にそういう方向

で取り組んでおられるのでしょうか。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 各学校の様子は、少しわかりかねますけれども、おそらくそういったいろんな場合を想定して、訓練をされておりますので、今年は授業中にやるけれども、来年は休み時間にやるとか、そういう変化を加えながらの避難訓練はやっていると思います。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） これは、津波に対する避難でしたけれども、学校のマニュアルどおりでやったら、沈んで命を落としているような子どもたちが、子どもたちの判断でさらに高台に行ったために、たくさんの子どものみならず、地域の方々が助かったという事例が、2日ほど前のテレビでも放送されておりました。そういうことで、子どもたちにただ、こうするんですよ、ああするんですよと、子どもたちに安全とは、または避難とはどういうことやということをやっぱりもっとする。それが、年に1回の全校訓練ではちょっと私は徹底しないんじゃないかなと。私もちょっと一時期、学校現場の近いところにおりましたもので、子どもたちにゆとり教育をするために、夏休みも若干短縮されている実態です。もう少しやはり危機管理というものから考えたときに、やっぱり子どもたちが本当にその命を守る、そのための術を会得するきちとした指導体制を望みたいと思います。

さらに、今、教育長のご答弁の中で、地震が起きたときはまず机の下に隠れる、避難する。それは、それで一応マニュアルとしてはいいんです。次の段階、おさまった段階、先生の指導によって逃げるといった状態が起こってくるわけですけど、そのときに、どういう方法を用いて避難されているか。私は、ヘルメットとまでは言いませんけれども、やはり当然、災害から身を守るための術として、まず頭を守る、何かのものをきちっと常に備えておくということが大事かと思います。その辺について、いかがお考えでしょうか。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 地震のときは、上から物が落ちてこない、横から物が倒れてこない、そういった場所にまず逃げることが、一番大事だろうと。その基本的なことはきちっと指導しております。それから、今おっしゃられましたけれども、避難をする際、途中で物が落ちてくる可能性もございますので、必ず帽子をかぶるということはきちっとどの学校でも指導していると思います。子どもたちが椅子に敷く座布団でしょうか、あれをかぶって逃げる場合もございます。しかし、ほとんど揺れがおさまってから、おさ

まってこれ以上、揺れがないということを判断した時点で避難場所へ行かせますので、地震が起こっている最中に避難させることはまずないと思います。

以上です。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 確かに、慌てて逃げていろいろ倒壊するものとか、飛んでくるものにあって、かえって危険やということで、まずは安全な場所への誘導と同時に、その安全なところでの避難、机が教室の場合ですと、一番有効なんですけれども、それに対して、教育長がくしくもおっしゃったんですけれども、私は各自の身を守るために、本1冊持って行って避難訓練をしているようではだめだと思うんですね。頭に本を乗せるような状態。最近の子どもたちは、どこまで徹底しているかわかりませんが、椅子に必ず座布団というんですか、そういうものがつきものかと思うんですけれども、実際、敷いていない子も多いように聞いています。

そういう意味におきまして、昔話になって申しわけありませんが、我々は鉄砲の弾を防ぐ防空頭巾という歴史を知っております。それと同様に、その座布団を徹底して持たすなり、いわば防災用具として活用するなり、そういう方向での取り組みもいいんじゃないかなと思います。もし、特に危険なところであれば、可能な限りヘルメット等をというところなんですけど、たちまち通常の保管場所とか、難しいと思いますので、その辺のところ、子どもたちのとれる行動の範囲内はその辺でしておきたいと思います。

次に、当然、災害が起こった折、子どもたちを下校させる必要があります。先ほどの質問にもちょっと重複してくるかもわかりませんが、保護者との連絡体制、これをものようにきちっと系統立てて、または保護者との連絡について、密な方法を具体的に記載したそういうものが補完されているのか、その辺についてお伺いしておきたいと思います。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 大地震などの不測の事態が発生し、学校は保護者の迎えが必要であると、そのように判断した場合は、保護者に緊急メールを配信したり、直接、保護者に電話連絡を入れ、迎えの要請をしております。ただ、保護者と連絡が取れない場合もございますので、そういう場合は、子どもを自宅に帰さずに、そのまま学校が避難所になることから、学校で待機をさせていただきます。

このようなことを想定しながら、学校は保護者に対して保護者参加型の避難訓練や児童の引き渡し訓練の実施をしております。そのとき必要になりますのは、児童引き渡しカー

ドというのがどうしても必要になりますので、そういったカードをつくって、学校で保管をしていると思います。

以上です。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 今、児童を保護者に引き渡すときの訓練をやっているということなんですけど、これは野洲市内の全校がその方向で訓練、保護者も含んで、いわば想定訓練がなされているのかどうか、お伺いしておきます。

○議長（三和郁子君） 教育長。

○教育長（川端敏男君） 全ての学校で行っているわけではございません。今、たしか祇王小学校では行っていると思いますけれども、そういった訓練は非常に重要でございますので、保護者参加型の訓練も徐々に取り入れていきたいなと。これは、学校だけではできませんので、地域を含めて考えていきたいなと、そのように思っているところです。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 今、教育長にお答えいただきましたように、やっぱり地域の子は地域で守る。まず、保護者ですけれども、全体が子どもを守る。学校だけが1つのなにと。その辺で、いわば現在、祇王学区ではいろいろな形で非常に進んだ取り組みをなされていると聞いております。一方では、比較的のんびりと構えているんじゃないかなという感じもありますので、野洲市の子どもたちの命を守るためにも、やはり市全体として訓練のあり方、もう少し回数も含めてやっぱり実施すべきやないかという、1つの私なりの意見を申し上げて、この項目に対する質問等は終わりたいと思います。ありがとうございます。

そこで、関連質問なんですけど、今、教育長がご答弁いただきました課題につきまして、これは、児童集団教育現場におるときには、当然、学校の方での指導が必要ですが、全ての子どもは市民であります。そういう意味におきまして、市の防災計画、またはそういうことに対して、親子での対話なり、地域での防災活動への積極的な子どもたちの参加、そういうものを促すことは、これはむしろ教育委員会できに、行政の方で活用すべきという思いを私は持っているんですけれども、これに対して、行政のサイドからのご答弁をお願いしたいと思います。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 西本議員のご質問にお答えいたします。

子どもが学校で学んだ防災教育を日ごろから子どもたちを通して、家庭で命を守る体験、避難訓練について認識を深めていただきまして、保護者等も地域社会への共助の必要性や地域防災力の向上につなげていっていただけるものと考えております。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 先ほど、教育長にも申し上げておりましたけれども、そういう際にも、やっぱり必要になってくるのが、いろいろな防災に対する手引きだと思います。市におきまして、一般向けのやつ含めてなんですけれども、こういうときにはこうするんですよという、まずはマニュアル的なもの、そういうものも含めて親子で使えるような、そういうものも考えて、ひとつ配付していただくような方法をさらには検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（三和郁子君） 市民部長。

○市民部長（佐敷政紀君） 現在、地域防災計画も策定を終了させていただきましたし、防災マップもございます。また、今おっしゃっていただいたマニュアル的なものにつきましても、検討させていただきたいと思っております。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 次に、大きく2問目に入りたいと思います。

昭和40年代に、当時の国の大きな事業の1つとして、天井川になっている野洲川の水を水害から守るという目的で、大改修をなされました。当時の金で200億とか、私は聞いていたんですけれども、当時の200億であれば、今は何ぼになるのかなというぐらいの大事業です。それによって、以後、私たちは幸せなことに、毎日、雨が降っても、水害の心配というものから、安心なまちと変化しました。非常にありがたかったと思います。

しかし、逆に非常に残念なことがあるんです。私の家庭も含めて、いろんなところで池があり、そして、その池の水がそれぞれの自治体の中の小川となって、せせらぎとなり、いわば川には水があるのが当たり前という状態で考えておりましたが、地下水位の大幅な変動によりまして、今、ポンプアップしても、なかなかうまく水が取れないというような状況にも起きております。

そこで、私は何とかやっぱり水は命の源でもあり、そして、一番何よりも心の安らぎの持てる1つの自然であろうと思います。そういう意味におきまして、それぞれ枯れてほとんどどぶ川状態になっている川を何とか復活し、または、地域で水に親しめるようなものをどんどんと提供していただいて、いわば生活環境の中の心のオアシスとしての水の活用

を期待したいなと思うんですけども、たまたま私がこのことを通告書の原稿をつくって  
おりました折に、隣接する守山市では、何か野洲川の下流域においての、そういう水を流  
そうという調査費が９月議会の予算に盛りられるという、マスコミでの報道がありました。  
もう市長やら、何回も見ておられると思います。

このように、豊かな水路を復活へということです。水は、農業用水とか公園用水とか、  
必ずしもそういう状態でなしに、やっぱり我々の体験からしますと、一時的には農業用水  
に取られることもありますけど、ほとんどがやっぱり地域をきれいに流れて、いわば、静  
かなところでは水のせせらぎというものを耳にすることができます。それが、昭和４０年、  
４０年以上、我々の町内等においては、そのせせらぎが全然聞こえなくなってしまいました。  
寂しい限りです。住環境、人が住む環境の１つとして、このせせらぎの流れるまちに  
していただきたいなということで、具体的に質問に入らせていただきます。

今、申し上げましたように、近隣の守山市では、くしくも同タイミングでこのような記  
事が載っておりました。これがどうなるかは、行方はわかりませんが、私の発言し  
ようとする趣旨は全くこれと同じものであります。そういうところで、野洲市においても  
同様にひとつ何とか中小河川の復活、それがいわば、昔のように樋門で取れるのか、もし  
くは地下水のくみ上げになるのか、琵琶湖からの逆水によって供給できるのか、方法は幾  
つかあるかと思いますが、まずはこれらについて何とか行政として取り組んでい  
こうという姿勢があるのか、その辺についてお伺いしたいと思います。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 西本議員のせせらぎの里づくりについての、今、守山市  
が取り組みをされる、９月議会での取り組みの補正の考え方等なんですが、守山市が今議  
会に地域環境用水確保対策検討費という形で補正予算を提案されております。中を見ます  
と、野洲川と地域の水路をトンネルでつなぐ方法だとか、琵琶湖からの逆水、今、申され  
ました、地下水をくみ上げるという活用が新聞に載っておったんですが、非常に現状では  
難しいんじゃないかと私どもは思っております。

今日まで、本市におきましても、こうした環境用水の要望がございましたので、環境用  
水に係る水利使用許可取得、国土交通省から琵琶湖からの取水もそうです、野洲川からの  
取水もそうした使用許可というものが必要になってまいります。また、野洲川の下流地域  
で、農業用水の施設で多目的利用ができひんか、琵琶湖逆水を今、農業用水として使っ  
ておられますが、そうした利用ができないかということ。具体的な手法と課題を検討してま

います。いずれも非常にハードルが高いと、現実的には困難と判断をしてきたところでございます。今のところ、守山市での取り組みが補正をされて、取り組みをされるということですので、この取り組みが実効性のあるものなら、また参考にはさせていただきたいと考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） いずれにしても、コストが高い。でも、これは一人ひとりの市民にとっては、大変ありがたいというんですか、やっぱりそれなりの効果のあることなんです。私は、絶対にこれが全てを解決するかというと、それは水を流すだけで解決する、それであればいいんだけど、他にもニーズ的なものもあります。だから、これだけを取り上げてどうこうという思いはありません。

ただ、市として水を流して、私の仮称で申しわけないんですけども、せせらぎの里づくりをやっていこうという姿勢を市として持っておられるのか。きつい言い方ですけども、せせらぎの里づくりを推進しようという条例、条例制定というところちょっと堅いように取られますけれども、そういうまちづくりの方向性というのは、全く否定されたもので終わるのか。それとも、今後やはり十分検討を加えていくだけの余地があるという認識でおられるのか、その辺をしっかりと伺っておきたいと思います。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 野洲川の上流部、野洲川の水を利用した農業用水で、石部頭首工から取水していますね。これにつきましては、今現在もやっておりますけども、野洲川土地改良区で、地域用水機能増進事業というものをやっております。これはあくまでも、親水を利用した、その野洲川の冬季でも水が通りますので、自然流水を利用した、そうしたものをやっております。市としても、それに対して負担もしております。ですから、そういうものをせせらぎの里というか、親水を否定するものではございません。

しかし、下流地域、野洲川、中主地域を主になんですけども、これについては今、自然流水がないということでございます。これについては今、言いましたように、野洲川からの取水というのは取水権というものがありますので、それを取るのは非常に難しいと私も踏んでおります。また、琵琶湖からの逆水を利用する。これについても、琵琶湖からの河川の取水権というものがある。これも、非常に難しい問題が発生してくるということがあります。



もう1点、地下水、今、守山がやろうとしている、野洲川の北流地域、ご存知だと思いますが、畑地をやっていますね。あそこは地下水をくみ上げているんです。あそこについては、ほとんど金気なんです。みんな除鉄装置をつけて、鉄分を除いて農業用水として使っているということでございますので、ただ単に井戸を組み上げて、そこで水を流したらいいというものではないと思いますので。守山がどういうふうな形をとられるかということも見極めていきたいと思っておりますし、せせらぎの里というか親水については、私もそうした取り組みもやっているということをご承知置き願いたいと思っております。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 今、部長から最後の方で、親水ということで具体的にやっているという答えです。私の知る限りにおいては、中主小学校前の親水公園なんかが1つの例かなと思います。あれもいろいろと維持管理等において経費的にたくさんかかる、そういうものもありまして、先日も行政と大分、押し問答的になったというんですか、「何とか市としてやってほしい」「いや、それは地元管理で」という状況の中で、ポンプの据え替えを各自治会がやるということで、もう既に噴水も上がっております。非常に経費もかさむことは百も承知なんですけれども。

例えば、1つの例を申し上げますと、昔、比江の水源地から組み上げた水に、当時はまだ余裕があったんですね。だから、その余裕水を必ず、その隣にあります河川に流して、比江から小比江、北比江、西河原、比留田、その辺までずっと私の家の裏側の小川にも、その水が来ていました。毎年、蛍を楽しむというような雰囲気もありました。でも今は、全くだめなんですね。はっきり言うならば、家ばかり建って、味気ないな。逆に、自然が失われて味気ないなというような思いで、ほんま引っ越ししようかなというような思いまで至る。余り言うのは、それ以上。旧の野洲というのは、おおむね石部頭首工かどこからの取水によって、中小河川に流れておりました。特に、部長のお住まいのあの辺に行くといけないと思うんですけれども、正直言うて、河川整備もされて、非常に水に親しむ環境というものが十分でき上がっております。あそこまで全てとなると大変なことになりますけれども、何らかの形で市内全域、やっぱり市民が水と親しめるという環境、それと単に見た目の環境でなしに、一人ひとりの市民が心を癒せる、そういう環境づくりという意味において、大変、私は有効な1つの方法じゃないかと思うんです。

市として確かにお金もかかります。先ほどおっしゃったように、親水公園、井戸を掘ったで、何メートル掘ったんやと。8メートル掘りましたと。これは、金気やわと言いまし

た。だめになりましたと言うてるし、もう数年の間で完全に水がとまりました。もう一度、掘削して、今現在、約40メートルぐらいの地下水からくみ上げております。それは、金気じゃないです。比江の水源地ももちろん金気は混じっていないと思います。井戸やから、あの辺は全部、金気やおっしゃいましたけれども、必ずしも掘削の方法、それら専門家に委ねんなんかもわかりませんが、それらによって見た目の黄金気を取り除くことは十分可能だと思います。ですから、その辺の認識は改めていただきたいなと思います。これに対して、ちょっと先に認識について答弁願います。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 当然、比江については井戸を掘って、水道水を供給していますし、また、その水道水は、前に旧中主では、それを親水として川に流していたという、そういう認識はございませんでした。今は、自己水比率と県水比率が半々でございます。できる限り、自己水比率を高めていかなければなりませんので、今、比江の水源地の工事もやっております。それでも、たった4%ぐらいしか改善されないということです。これを県水を、水を流すということになりますと、これは大変な水道料金のはね上がりにもなってきます。それは、考えられないと思っております。

ただ、下流域全体でいきますと、本当に下の方まで行きますと、野洲川地区の畑地開発といったところは、ほとんど金気です。金気の部分が多いです。ですから、皆、除鉄装置を設置しているという状況でございますので、まず、どの場所で掘るのが一番いいのかというのをございましょうが、今の旧北流の部分については、そういう状況であるということ認識しております。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 今、部長のおっしゃっている農業用水としての地下水くみ上げで金気であると。金気という意識は、どちらかというと鉄金気よりも黄金気かなと思うんですけれども、その辺どうですか。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 除鉄装置がありますので、鉄分だと思いますけど、その辺の認識しかございません。

○議長（三和郁子君） 簡単明瞭をお願いします。西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 簡単明瞭にということで、ご指導いただいておりますので、今現在、幾つかの自治会で地下水などをくみ上げて、小川に流しておられる。特に、六条なん

かは長年伝統的に道に並行した河川で鯉を飼ったり、いろいろ自然環境を保とうと努力されています。これらについて、水そのものの治水のなには自治体やないかなと思うんですけども、地元がそういうことをやられることについて、具体的に何か市としての手だてというんですか、そういうものはできているのでしょうか。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 六条がポンプアップして、今、流されているのは承知しております。そうしたことは、地域で自発的、地域住民との合意形成を持って実施されていると理解もしておりますので、かかる経費についての費用の支援というのは考えておりません。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 地元が自発的にやっておられるから、市として考えていないというのは、それは確かに正当な答弁かも知れません。しかし、まちづくり、1つは市民の住環境の1つとしてあれだけ頑張っておられるのであれば、市としても何らかの手だてをやっぱり立てていかないと、水そのものの、市全体、山から流れる水もありゃ、ポンプアップした水も、全体的な管理というのは、やっぱり市にあると思うんですね。だから、各自治会におんぶしているんじゃないしに、野洲市としての、地方自治体としての治水、水管理、そのものの全体環境整備も含めて、行政が対応すべきやないかと考えます。いかがですか。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 現在、六条については、川に流して親水というふうな、環境用水というような感じで流されておりますけども、野洲市内では、その他に農業用水として多くのポンプアップをされております。そのポンプアップについての費用も各自、農業者の方々が負担されているということでございますので、そうしたことも含めてでございますが、今現在、市で支援するということは考えておりません。

○議長（三和郁子君） 西本俊吉議員。

○9番（西本俊吉君） 現在、考えていないということ。農業用水といって、生産に直接結び付く水をくみ上げているのは別として、そこそこやっぱり市民の私が言わんとする癒しの効果、そういうもの、市民の住環境、それも1つの大きなものやと思います。その辺からの1つの手だてを何とか市の行政として、取り組んでいただきたいなと思います。

冒頭に申し上げました、せせらぎの里づくり推進条例の制定、これは私が勝手につけた

ネーミングかも知れませんが、私はぜひともこの方向で、行政も取り組まれるようお願いしたいわけですが、このものずばりじゃなくて結構です。何とかそういう方向で推進していただけないかということをもう一度お尋ねして、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（三和郁子君） 環境経済部長。

○環境経済部長（竹内睦夫君） 先ほど申しておりますように、市全体としては、こうした環境用水の確保というのも非常に難しい地域もございますので、困難と考えておりますので、現在のところ、条例制定というところまでは考えていないということでございます。

○議長（三和郁子君） 次に、通告第6号、第5番、高橋繁夫議員。

○5番（高橋繁夫君） 第5番、高橋繁夫でございます。私は、今任期の最後の一般質問とさせていただきます。

今年の猛暑は特別に厳しく、おかげさまでビール、飲料関係の売上が好調であります。また、この猛暑の中、甲子園球場では熱戦が繰り広げられました。残念ながら、滋賀県代表の彦根東高校は初戦で敗退いたしました。この高校野球のマスコミの取り上げ方が異常でないかと報道されております。確かに、テレビや新聞の取り上げ方は大きく、他のスポーツ報道とは比較にならないのが実状でございます。これは、高校野球が長年の築き上げた歴史と野球独自のドラマチックな展開により、日本人が持つ国民性と融合して生み出されたものといわれています。しかし、私はそんな理論的なことより、高校球児ががむしゃらになって白球を追いかけていく、そんな姿に国民が感動を覚えているのではないかと考えております。高校球児がグローブや帽子に、一球一球に魂を込めているという意味で、一球入魂と描いておりますが、私もそれにならって、一問入魂で質問させていただきます。

まず、市職員に求められる人材確保について伺うものでございます。

先日のマスコミ報道で、全国の市を対象に、住みよさランキングが毎年公表されており、2013年版の結果が公表されました。この住みよさランキングは、公的統計をもとにそれぞれの市が持つ都市力を、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の5つの観点に分類し、採用14指標について、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出、その単純平均を総合評価としてランキングしたものであります。ちなみに、今年の総合評価は、1位は、千葉県印西市でございます。この住みよさランキングは、近畿トップを見てみると、1位が草津市、4位が守山市でございます。7位が栗東市、11位が近江八幡市となっております。野洲市は、近畿のトップ20には入っておりません。

私は、湖南4市で、この住みよさランキングの状況を私なりに分析いたしますと、交通インフラ、いわゆるJRにより大阪には1時間で行ける条件に恵まれている点などが評価されていることと、また、近江八幡市が評価されていることも含めると、野洲市の評価を落としているものを考えますと、医療機関などの水準を比較しますと劣るのではないかと。また、駅前の現状を比較、分析した結果が、ランキングそのものに反映されていると思うのであります。

誤解が生じるといけませんので、もう少し触れますが、私は、ランキング入りするために施策を展開すべきだと、決して思っておりません。先ほども申し上げましたが、このランキングの評価により、野洲市が今後どのような施策を展開すべきか、その分析の参考にすべきであると思っています。すなわち、これから野洲市で進めようとしている野洲駅南口周辺整備構想と新病院整備基本構想がキーポイントになるものと強く感じております。そういった意味で、今回の補正予算で、この2点を盛り込んでいただき、計上されましたことに対しまして、賛同させていただきたいと思っております。

さて、市民の方々は、野洲市に住んでよかったという満足感を求めておられますが、一方で、その施策を実施、実現するマンパワーを求めています。その第1は、市長であり、次に、市議会議員でございます。さらに、市職員でございます。市長は、昨年に無投票で再選されたところであり、市議会議員はこの10月に選挙を控えており、4年間の実績の評価が投票結果にあらわれます。市職員につきましては、毎年の勤務評定により評価されていると伺っております。最近の職員さんを見ておりますと、高い倍率を乗り越えて採用されていることから、知識には恵まれているようですが、マンパワーの大きな特徴であるバイタリティやパワーがあふれ、チャレンジ精神を持った、そういったところが少し不足しているような印象がございます。

そういったことから、全国の先進的な人事採用では、人物重視の自己アピール採用制度を導入している自治体が出てきました。これは、2種類の採用試験を実施するものであり、1つは、現在、野洲市でも行っている通常の採用試験であります。これとは別に、近年では市民の皆さんと一緒に仕事をする機会が増えて、わかりやすい説明やさまざまな意見を調整できる能力が職員さんに求められております。このように、学力だけではなく、人と接する力、いわゆるコミュニケーション力が重要となっていることから、筆記試験、面接試験に加えて、人前で自らの意思を他者に伝達するために表現、提示するプレゼンテーション力を試す試験。この2つの評価配点を高くして、合否を決めていこうとする自己アピ

ール採用試験であります。この自己アピール採用において、愛知県の豊田市では、筆記試験さえも実施されておられません。これは、行政経験を積み、知識は個人個人に蓄積されますが、現在の自治体を取り巻く課題解決には、知識だけでは解決できない課題がほとんどであります。こういった課題を解決するには、市民にわかりやすく説明し、丁寧に理解に導くよう説得し、最後には市民に納得させる能力が求められています。このようなコミュニケーション力を持った職員が自治体には不足しているといった意見が最近よく聞かれます。そういった人材を育てるには、時間と経験が必要であり、長い時間を要します。こうしたことから、全国的にも愛知県の豊田市や栃木県の宇都宮市、また、県下では草津市も、自己アピール採用制度を導入されております。

そこで、野洲市も自己アピール採用制度を導入し、コミュニケーション力を持った職員を採用すべきと考えますが、当局の見解を伺うものでございます。

次に、道路、河川の整備促進について質問させていただきます。

私はこの４年間、道路や河川の整備に関する質問を中心に行ってまいりました。これは、市民の生活に直接に影響することから、当局の考え方を求めたものであります。４年間の野洲市議会議員活動を総括するとともに、次期の議会活動に展望する意味で、道路と河川整備を質問させていただくものであります。

まず１点目は、道路でございます。県道野洲中主線も数多く質問させていただきましたが、その甲斐があつて、全線供用開始の目処も立ってきましたが、一方では、まだ運送会社の用地買収が完了したという報告が聞こえてきません。いったい何年かかっているのでしょうか。この一事を見ても、滋賀県の道路の取り組み状況がわかるのではないのでしょうか。

８月２２日の県との政調会において、県会議員にも強く早期の県道野洲中主線の供用開始を要望させていただいたところでございます。まず、県道野洲中主線の現状と今後の見通しについて、確かな答えを求めるものでございます。

次に、同じく県道安養寺入町線ですが、これは篠原駅の供用開始が平成２７年度３月と迫ってまいりました。このアクセス道路である、県道安養寺入町線の用地買収、特に、野洲市の地権者の一部に賛同が得られないということも聞こえてまいります。この用地買収の状況をお伺いするものであります。

次に、河川の状況をお尋ねするものであります。日野川は、野洲市の地先もほぼ終えたところでありますが、今後も引き続き整備促進を求めているかなければならないと強く思っ

ております。一方で、野洲市ウィークポイントである野洲駅前の排水対策に直結する童子川改修の進捗状況を伺うものであります。どうぞ、ひとつよろしく願いいたします。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 高橋議員のご質問にお答えをいたします。通告は、私と部長になっていましたけど、当局の意見とおっしゃいましたので、人材と道路、河川は部長が答えますけど、前のところだけ、私が総括してお答えいたします。

まず、職員の採用につきましてですけども、これは今、高橋議員おっしゃいましたように、まず市の公共サービスは、人が仕事をして提供しております。当然、制度あるいは施設も必要ですけど、まずは人ですので、政策の形成能力、実現能力、それと今おっしゃいましたコミュニケーション能力が一番大事だと思っています。特に、コミュニケーション能力はいろんな分野で今、大事と言われていまして、昔だったらむつつりしていても、手さえよければいいという、お医者さんの分野でも、特に臨床医はコミュニケーション能力がなければいけないと。特に、欧米ではコミュニケーション能力が重要視されていたんですが、日本は医者というのは、頭と腕さえよかったらいいということだったんですけど、今はまさにコミュニケーション能力ですので、私ども公共サービスの現場でも、まさに大事だと思っています。

ただ、採用のやり方にはいろいろ課題があります。今、ご提案いただいています自己アピールの採用試験。まちによっては、いわゆる学科といいますか、そういったものもなくしているようでもありますけれども、一時、大学が一芸に秀でた採用をやっています。今もやっていますけども、やはり公務員がきちっと20年、30年、仕事をしてもらおうと思うと、やはり基礎的な部分が必要です。そこを抜かしてというわけにはいかないと思っています。ただ一方では、やはり多様な人材が必要ですので、紋切り型の選考のやり方ではだめだと思っています。ただ、野洲の場合はご承知のように、いわゆる基礎的な学科試験を経た上でグループ討論。そして、最後は面接をやっています。私と何人か、教育長とか頼んでやっていますけれども、そこで自己アピールをしていただいています。もちろん、それまでに多様な人が絞られている場合もありますけれども、昨年度大体11倍でしたし、今年度も大体11から13ぐらいになると思いますが、最終的な採用人数によりまして。面接にまで至る人をできるだけ広くするように、個々に私は触れていませんけども、幅をとるように言っていまして、そこで自己アピールをしていただいていますので、実質はそういったことになっているのではないかなと思います。

それと、今ご提案の採用の仕方、これは大事なんですけども、それよりもやはり、いい人が市役所に来てくれるのに、一番重要なことがあります。これは、やはり野洲市の仕事のよさ、野洲市へ来れば、風通しがよくて、自分の思いが実現できる。そして、市民のために仕事ができるという、この実態。それが、外へ伝わるということが大事です。

私の例でいきますと、私はそれで滋賀県庁に入ったんじゃないんですけども、ちょうどあのころ琵琶湖問題があって、環境に力を入れていました。それとあわせて、国際的な環境をやっていました。ですから、あのころ、私は例えで言ったんですけど、旗が高く上がっていると。全国から滋賀県に行けば、環境問題の最先端の仕事ができるとか、国際関係で自治体でもできるということで、それを目指して、それなりの人材が当時は、30年以上前ですけど、集まっていたと思います。その実感からして、私は野洲市の場合、できるだけ職場の雰囲気がいい、そして、提案ができる、そして実現ができるという風土づくりが大事だと思っております。ちょっと僭越ではありますが、議会のことに触れていただきましたので、ぜひ野洲市議会も倍率が高くなるように、いいようにしていただきたいと思います。

それと、道路と河川。これは、私は徹底的にやっけていまして、道路の昨年度の交付金も、県は知りながら1カ月以上、漫然と放っておいた。あれが、湖南幹線、そして今の野洲中主線に響いてくるので、早速知ってすぐにアクションを起こしています。そして、国にも直接行っています。

それと、河川につきましても、徹底的にやっているつもりです。今、日野川につきましては、いつできるか本当にわからないぐらいにひどいので、もともとからの提案は直轄化してほしいということですけども、先般も本当に具体的に日野川の直轄化、そして、野洲川の直轄化を実現したいと。これは、もう単なる口だけじゃないです。ただ、滋賀県の場合、嘉田知事は地方移管を言っていますから、直轄化反対なわけです。国交省の人たちも言っています。ただ、先般、野洲市内で自治創造会議をやったときに、嘉田知事が河川整備やりますよ、やりますよと。でも、財源がないと言ったので、財源がないんだったら、国がやってもいいというところは、手放したらどうですかと。河川もそうですし、県道の山手幹線もそうです。そしたら、その方向でいいと言ったので、それも踏まえて、先般、国土交通省に河川の要望で、今、私は滋賀県の河口砂防協会の会長をしています。その要望に他の市と一緒にいきまして、直接、国土交通省の事務次官、技官、そして当然、局長、課長に直轄化も含めて、今までのおぎなりの要望じゃなしに、直轄化によって、一層進め



てほしいということまで言うておきました。

道路も河川も皆さん方のご支援をいただきながら、その力を受けて、本当に口先だけじゃしに徹底的にやっておりますので、一層のご支援をいただきたいと思います。具体的なところは、また部長の方がお答えをいたします。

以上、ご答弁といたします。

○議長（三和郁子君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本利夫君） 私の方から、道路、河川の整備促進の現状と今後の見通しにつきましてご説明をさせていただきます。

議員の質問の１点目の県道野洲中主線の買収につきましては、一部で買収がまだ完了しておりません。現在、滋賀県の方から買収価格の提示をしているところでございます。１日も早く全線の供用ができるよう、県とともに粘り強く用地交渉を進めていく所存でございます。なお、平成２５年度におきましては、周辺の測道及び歩道整備工事を実施していただく予定でございます。

また、県道安養寺入町線の買収につきましては、現在のところ、全員の方に用地買収に応じていただいていない状況でございます。新しい駅舎の供用開始やロータリーのアクセス道路の工事とあわせ、篠原駅南口へのアクセス道路として、利便性の向上を図るためにも、同様に引き続き県とともに未買収用地の交渉を進めていく所存でございます。

また、河川の状況についてでございますが、童子川の改修の進捗状況につきましては、今年度に入りまして、県とともに五之里の自治会で地元説明会を行い、詳細設計のための測量調査を県で実施をいただいております。今後、用地買収の手続きを進めていくとともに、本市が実施をしております友川の雨水幹線整備と整合を図り、２７年度に暫定通水ができるよう事業を実施していただく予定でございます。

以上でございます。

○議長（三和郁子君） 高橋繁夫議員。

○５番（高橋繁夫君） 答弁いただきまして、ありがとうございます。では、ちょっとだけ再質問をさせていただきます。

野洲市として、組織の魅力を伝えられれば、それに雇用する人材が集まってきます。その基本的な考え方には賛成いたしますが、雇用する人材の中から職員を採用することになりますが、いかなる職域での人材も昨今の大学と同様で、入ることよりも入ってからどのように人材を育てていくかがポイントになりますが、大学はせいぜい４年間でございます

が、就職となると40年近くになりますが、適切な表現ではありませんが、約3億円ぐらいの備品を購入することと同じことであり、議会の議決を要するぐらいの大きなことです。そういった意味で、採用した人材をどのように育てるかがポイントになりますし、他の自治体も企業も人材育成にも力を注いでおります。そこで、野洲市の採用された職員さんなどの人材をどのように育成されているのか。具体的に実践例をお聞かせ願えれば幸いです。

次に、道路、河川の整備促進についてであります。どうも私の心の中ではすっきりいたしません。県道野洲中主線は、そもそも平成25年度に全面供用開始することで説明を受けたところでございますが、それなのに、ただいまの答弁では、県とともに根強く用地交渉していく旨の答弁がございました。粘り強く運送会社と何年交渉していくのか、10年以上あるはずですが、そういった経過を考えると、この粘り強く用地交渉していくという段階は、とうに過ぎているのではないかと思います。再答弁を求めます。

○議長（三和郁子君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 高橋議員の職員の育成、そして、道路についてもちょっと私がお答えをいたします。補足は、また部長がするかもわかりません。

まず、先ほどいかに幅広い優位な人材を採用するということでしたので、それをお答えいたしました。あとの職員の育ち、能力の向上、開発、これは奇策はないと思っています。原則は、いわゆる職場の研修といいますか、仕事を通じての能力の高まりで、これは昔から英語を使って言っていますが、OJT、On the job training、仕事を通じての能力開発です。具体的に今、何をやっているかといいますと、当然やはり上司、仲間に見習いますから、その意識を高めるということが重要です。私が心がけていることは、毎週、部長会議で、できるだけ抽象化していますけれども、指示をしている。あの裏には、職員が言っているみたいですが、どこのことを私が言っているのかなと言っているらしいんですが、大体その1週間にあった問題点を抽象化して指示をしています。場合によっては、具体的にやっています。いろんな前向きなこと、後ろ向きなこと。まずは、やはり上の人、部長、次長に意識喚起をしないと始まりません。

それと、先ほど丸山議員が市長への手紙のことでご質問いただきました。あれは、本当に裏では、我ながらよくやっているというぐらいに、手間がかかっています。4年間のときに大体集約したら、900通ぐらい、1期目で800から900、お答えを書いています。職員によっては、無記名の何か文句みたいなのか、何で書いているんやと言ってい

る声も聞いているんですけども、どんな声も全て丁寧に均等に扱って、お答えをしています。それは、職員にしてみたら、無記名で来ているのに、何で忙しいのにこんなに答えを書かなあかんのかと。私も多分、自分が若かったら言うと思います。でも、書いてもらって、そして部長まで決裁をもらっています。

先ほど答弁しましたように、すっと通るのはほとんどないです。全て疑問点とか、おざなりだったり、逃げだったり、不明確だったら、来てもらっても結構です、しゃべりかけに行く。それによって、問題意識、コミュニケーションがとれます。そして、どうしてもあれだったら、私を書いて、もう1回返すことによって、お手本という失礼ですけど、示しています。

それと、今議会のこれもそうですけども、議会の答弁、職員に聞いてもらったらわかりますけど、かなり厳しくやっています。怒鳴りつけていませんけど。例えばですけども、今日の野並議員のご質問、同和対策と人権条例の見直しがありました。普通は、一体に考えているわけです。議論していくと、同和対策、かつての措置法の流れと、そして、人権条例の流れは違うわけです。その疑問を解いていく。きのうも例で言ったんですけども、まさに人権担当の人がお得意のところで、弁護士さんという話でいくと、それは頭からそれは男性だと思っているわけですね。固定観念がある。それと一緒に、同和施策といわれたら、今の人権条例が絡む。これはやらないかんけども、強引にもうそんなん変えませんという答弁だったんですが、違うわけですね。流れが違うということを議論を通じて認識することによって、仕事の進め方が変わってきます。今回の病院もそうですし、いろんなご質問をいただいているのを徹底して答弁協議の中で原点に戻っています。ですから、丸山議員のご質問も、質問を受けてから、過去のことを可能な限り調べていただきました。これは、職員の気づきであるとともに、健全化、そして反省です。中途半端なことをしてはるのがわかってきます。というのが、一例ですけども、これを繰り返すことによって、私だけじゃなしに上司も部下も仲間も意識が変わる、仕事の仕方が変わってきます。これが、一例です。

それと、今の野洲中主線、本当に今さらどうなんかというぐらいですけども、県の姿勢が弱いと思っています。国8に関しては、私は徹底的に入っています。今日、皆さんおられますから言いますけども、随分いいところまで来ました。今、大きな問題点が、オリベスタの移転です。あそこは都市計画決定が打ってあるので、もう移転をしてもらわないとだめなんですけど、前からちょっと聞いていたんですけども、今の交渉の中で、先ほどの

梶山議員のご質問にあったように、状況がよくて、事業を拡張しようと思っておられる。できるだけすぐにしたいとおっしゃっているわけですね。そうすると、移転をしてまで、本当やったら移転をしてもらわないとだめなんですから、移転先を見つけて工場を建てるということは、これは大変なことです。ですから、本当だったら許可できないんですけども、許可する方向で今、動いています。補償をしてもらおうと。これは、もう直接、国交省と話をして、私とこは認めますよと。そのかわり、そのときになったら、その設備を補償して下さいということで今やっています、そこまで丁寧に入っていないとだめだと思っています。それと、市内に移転をしたいとおっしゃっていますので、あわせてそれらも多分、調整区域になると思いますので、並行作業で進めています。

今の県道の場合は、私はそこまで入っていません。県に任せておくと、今、部長が苦しい答弁をしましたが、頑張っています、調整しています。でも、その細かい何が引っかかっているのか、ここを説いていかんとだめですので、今の県道に関しては、ちょっと県の姿勢もあって、私は少しいい意味で緩やかにしているんですが、ぜひそこもきちっとやっていきたいと思っています。

必要だったら、また部長がお答えいたします。

○議長（三和郁子君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本利夫君） ただいま高橋議員の方で、具体的にご質問されました新幹線までの区間でご説明を申し上げますと、やはり事業効果をできるだけ高めるということで、実際に議員もご承知のように、国道8号線側から工事を進めておりました。ですから、一番新幹線側でございますが、一番最後になっておるということでございます。用地買収もしっかりでございます。実際に、用地買収の単価提示をしておりますのは、今年度6月に入ってからでございますので、決して当該の会社のところに何年もかかっておるわけではございませんので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（三和郁子君） 高橋繁夫議員。

○5番（高橋繁夫君） 部長の方で、特に今いう野洲中主線、供用開始になりました。また、ふるさと農道が全面供用開始になりまして、小堤の小学生さんが朝晩通られるときに、自治会長、副、また民生委員さんが雨の日も雪の日も立っておられる状況でございますので、一刻も早いこと解決の道を探っていただきたいと思います。

最後になりましたが、再質問の答弁をいただきまして、誠にありがとうございました。昔から人を育てる、育成することは、至難の業でございます。幾ら優れた研修を繰り返し

ても、研修を受けられる側がその気にさせる、いわゆる前向きな気持ちにさせることの難しさ、それが第１歩でございますので、この１歩目がなかなかたどり着けない。だから、昔から至難の業と呼ばれる次第でございます。この第１歩を確かな手応えになるよう、今後の野洲市の人材育成を期待して、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（三和郁子君） お諮りいたします。本日の会議はこれにてとどめ、延会いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（三和郁子君） ご異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決定いたしました。

なお、明４日は、午前９時から本会議を再開し、本日に引き続き一般質問を行います。

本日は、これにて延会いたします。お疲れさまでした。（午後４時３３分 延会）

野洲市議会会議規則第127条の規定により下記に署名する。

平成25年9月3日

野洲市議会議長                      三   和   郁   子

署   名   議   員                      小   菅   六   雄

署   名   議   員                      鈴   木   市   朗